

# 全船協

会報 157号 2025年1月 新春号



「下北丸」NS ユナイテッド内航海運株式会社 提供



一般社団法人 全日本船舶職員協会

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL: <http://www.jmoa.or.jp>

## 山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号  
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520  
Email: info@sanyukisen.co.jp

## B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ  
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972  
Email: info@bands-k.com



## 北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号  
セントラルビル6階  
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575



## 一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5(海事センタービル)  
電話 (03) 3265-6641  
FAX (03) 3265-8710  
URL <http://www.captain.or.jp>



## 一般社団法人 海洋会

会長 関根 博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6  
東京海洋大学越中島キャンパス内  
産学・地域連携推進機構越中島イノベーション棟1階  
電話 (03) 6458-8215  
FAX (03) 6458-8214



## 一般社団法人 日本船舶機関士協会

会長 四方 哲郎

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地  
(海事センタービル5階)  
電話 (03) 3264-2518  
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp  
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

## 人と海に未来を

## 公益社団法人 日本海難防止協会

会長 池田 潤一郎

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8  
元代々木サンサンビル3F  
電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp  
<https://www.nikkaibo.or.jp>

海事業界メディアのバイオニア

## 日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは

電話 03-3436-3222 まで

電子版サービス「マリナビ」は  
[www.marinavi.com](http://www.marinavi.com) へ

## 海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行  
購読料 1ヵ月542円(税込・送料別)

お申し込み  
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6  
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

- ・海技教育支援・奨学金
- ・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

## 公益財団法人 海技教育財団

会長 明 珍 幸 一

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

## 株式会社 ウシオ



代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号  
電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070  
<http://ushio-kk.co.jp>

東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港



## 目 次

|  |  |
|--|--|
| 表 紙 … 石灰石専用船『下北丸』NSユナイテッド内航海運株式会社  |  |
| 巻 頭 言『V型 Smooth Bow』…………… 会 長 広 重 康 成 … 2                                |  |
| アラスカ LNG プロジェクトに SPB タンク方式選択の経緯<br>……………LNG マリンコンサルタントオフィス代表 藤 原 隆 広 … 4 |  |
| C号航海記（第6回）……………内海水先区水先人会水先人 会 員 栗 阪 肇 … 8                                |  |
| 大島商船高専資料館で見る昔の商船教育の姿……………大島商船高等専門学校 福 本 勇 規 …15                          |  |
| 赤池まさあき国政ニュース<br>商船高専練習船更新の要望を実現！……………参議院議員 赤 池 誠 章 …19                   |  |
| <b>北から南から</b>  |  |
| 富山高等専門学校 ……………21   |  |
| 鳥羽商船高等専門学校 ……………27   |  |
| 広島商船高等専門学校 ……………33   |  |
| 大島商船高等専門学校 ……………38   |  |
| 弓削商船高等専門学校 ……………43   |  |
| 海技教育機構 ……………49   |  |
| 本部・支部だより …………… 事 務 局 …52   |  |
| 賛助会員名簿 …………… 事 務 局 …53   |  |
| 会費納入者名簿…………… 事 務 局 …54   |  |
| 新規入会者…………… 事 務 局 …56   |  |
| 時事寸評・表紙写真解説・編集後記…………… 事 務 局 …58  |  |

### 事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。  
転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が  
可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail:[honbu@zensenkyo.com](mailto:honbu@zensenkyo.com)

ホームページ:<https://www.zensenkyo.com>

## ◀ 巻 頭 言 ▶

### 『 V型 Smooth Bow 』

会 長 広 重 康 成



夏の市内大会が予定通り 1 回戦敗退で終わり、中学三年生としてのバスケ部人生は完了しました。そこから受験に向き合うことになった私は、まだぼんやりとした考えの中にあり、

何を基準に高校を選ぶのか全く決めてはいなかったのです。

そんなある日、廊下を歩いていたら「海へ来られ 唐津海員学校」のポスターを見つけました。さらに数日後、「外国航路の船長、機関長への道 国立広島商船高等専門学校」も掲示されました。兄も姉たちも県内の高校だったから、県外を受験できること、そのこと自体が珍しく、新鮮な驚きを感じて胸がざわついたのを鮮明に覚えています。

担任の先生に海員学校と商船高専の内容を尋ねても、何も知らないし、わからない。でも、さかのぼって調べてくれて、卒業生が 1 人としていないことだけは教えて頂きました。仕方なく自分で調べてみると、福岡県久留米市の私の自宅から最も近いのは大島商船だと知るに至ったのです。

一度も経験したことがない。だから冒険はできるのです。とは冒険家の植村直己さんの言葉です。日本人として初のエベレスト登頂や単独犬ぞりによる北極点到達、あるいはアマゾン川 6,000km を筏による単独の川下りを体験したプロの冒険家の偉業と、大島商船受験を同等に並べるのは、あまりにも乱暴な話しですが、15 歳で初受験をする私にとっては、決して引けを取

らない重大な、大切な人生の決断だったのです。

さらに「全寮制」の文字が輝いて見えました。9 歳上の姉、7 歳上の兄、5 歳上に姉、そして末っ子の私です。甘えていたし、甘やかされて育ちました。だから親から離れて暮らすことが、とても素晴らしいことのように思えて、一日も早く家を出たいと望むようになったのでした。

筆記試験と身体検査に面接があります。片手懸垂と書かれています。片手だけで鉄棒にぶら下がって何回も懸垂するのか、と思いました。しかし、それは無理なこと。でも腕立て伏せくらいはやっておこうと昼休みに校庭で人目につかないように続けました。

筆記試験は北九州市戸畑区にある九州工業大学でした。兄が付き添ってくれました。雪が舞っていました。二日間 5 科目の試験が終わりました。二次試験の面接と身体検査は学校でした。連絡船で初めて島に渡りました。木造の建物が歴史を語っていました。片手懸垂は天井から垂らしたロープに 50cm くらいの間隔でノット(結び目)が付けられていて、それに 10 秒程度片手だけでぶら下がるだけのことでした。

そして、自分で書いた返信用の書留葉書で合格を知りました。嬉しかったですね。初めて自分の力で、自分の考えで、人生を一步踏み出したと実感しました。

学年が上がるにつれ、校内練習船による実習も増えていきます。午後から 3 時間ということもしばしばありました。すると私は酔うのです。瀬戸内海の鏡のように穏やかな海面なのに、私一人だけが青くなって今にも吐きそうなのです。「広重学生、大丈夫か」と教官や乗組員によく声を掛けて貰ったものです。決してもどすことはなかったのですが、気分が悪くて、思考停止の状態でした。それで船会社から出向で派遣されて

いた T 教官が寮の宿直の夜に、意を決して相談に行ったのでした。

「教官、私は実習で酔います。こんなべた風の瀬戸内海で酔う奴が、社船に乗って外洋の当直が務まるとは思えません。船乗りを諦めて進路を変えるなら早い方がいいと思いますが」と言うと、T 教官は私の肩をポンと叩いてから「広重、気にするな。俺も実は酔うんだ」と意外なお言葉。「そんな気休めやめて下さい」と口にするよりも先に「あの船はローリングした後止まる。止まったらピッチングだ。その繰り返しで常に揺れている。だから俺も酔うんだ。でも社船はそんなことはない。だから安心しろ。君たちは卒業前に航海訓練所の帆船実習と機船実習があるから問題ない。身体は船体の揺れにすぐに順応するようにできているからな。そもそも航海士になって働きだしたら酔っている暇なんかないぞ。航海当直の責任感で、気持ちが張り詰めているから大丈夫だ」

半信半疑ではありましたが、現役の二等航海士の言葉です。そのまま飲み込みました。もちろん結果は T 教官の言う通りでした。安心しました。

昨年 10 月 8 日、岡山玉野の三菱マリタイムシステムズで、鳥羽丸の進水式が挙行されました。大島丸が一昨年 3 月竣工引渡しされ、弓削丸は昨年 3 月に引渡し済みです。そして第 3 船目に鳥羽丸が進水式を迎えました。今年 3 月には竣工します。

これもひとえに、参議院議員赤池まさあき先生のご尽力によるものと、誌面をお借りして、感謝の意をお伝え申し上げます。

赤池先生は現在、国土交通・内閣担当の自民党政務調査会副会長です。また、海事振興連盟常任理事であり、海事立国推進議連事務局長をされながら、海洋教育推進プロジェクト座長を務められ積極的に海洋教育の普及のために、ほんの一例をあげるならば小中高の教科書に海洋関係の記述を掲載することを実現されました。さらっと書きましたが教科書に海のこと、船のことを載せるのがいかに大変な革命的なことであったかと、察するに余りあります。

赤池先生は文字通り日本中を飛び回りながら、

この島国日本の海事関連、海洋教育関連に多大なる貢献をされ続けているのです。

思い起こせば令和元年(2019 年)11 月 6 日、場所は自民党本部 901 号大会議室。商船系高専 5 校はそれぞれ地元の首長を旗頭として集合し、5 校新造練習船建造決起集会が挙行され、陳情が通り、予算が付きました。これは赤池まさあき先生による、国への積極的な働き掛けがあったからこそ実現できた結果であることを、私たちは決して忘れてはなりません。

その結果、昨年鳥羽丸が進水式を迎えることができたのです。意外なことに船首の形状が従来のバルバスではなくてディープ V 型船首形状の Smooth Bow 型です。ですから、船首はすたと V 型です。ドックの説明ではバルバスバウ型とのシミュレーション比較では、上下加速度が低減できるので船酔い率が改善されるし、平水中の船体抵抗も低減できる。また縦揺れ(ピッチング)が緩やかになり船内作業性や居住性が向上する。近年、日本海や太平洋を航行するフェリーで採用されていますという目から鱗のお話がありました。



私のような船酔いに苦しむ学生が一人もいないことを祈るばかりです。鳥羽丸の次は若潮丸です。そして第 5 船目に広島丸が誕生します。物流の 99.6%は海運が支えています。全船協は赤池まさあき参議院議員を応援します。我が国を支えるのは赤池まさあき先生であり、私たち全船協なのです。

## アラスカ LNG プロジェクトに SPB タンク方式選択の経緯

LNG マリンコンサルタントオフィス代表 藤 原 隆 征

### はじめに

アラスカLNG プロジェクトは、1969年11月4日、LNG船「ポーラアラスカ号」が東京ガス根岸工場バースに着岸して、これが我が国に初めてのLNGの導入である。

プロジェクトは売主米国のマラソン・オイル社（M社と呼称）およびフィリップス・ペトロリウム社（P社と呼称）、買主は東京ガスと東京電力との間で、当初は年間95万トン、期間15年間であったが延長で20年間の長期売買が締結された。

売主側は2隻のLNG船、タンク容積71,500m<sup>3</sup>、G/Tメンブレン（No82）をコックムス社（スウェーデン）で建造した。これが世界最初のメンブレン方式大型LNG 船であった。

両社の出資比率はM社30%、P社70%で、M社が下流部門の海上輸送、P社が上流部門のLNG製造、貯蔵および積み出し設備を分担することで合意された。

私はM社の設立した船舶運航会社、デラウェア州ウイルミントンに設立されたアラスカ・トランスポーテーション・サービス・カンパニー（ATSCOと呼称）の日本に於ける代表者として1989年1月1日に採用された。

平成元年新しい延長契約が締結された、その内容は次の通りである。

① 期間 1989年4月～2004年3月（15年間）、双方の合意により、さらに5年間延長できる

②数量 99万トン、東京ガス25万トン 東京電力74万トン

③新造船就航後の数量 100万トン、東京ガス27万トン 東京電力82万トン

以上東京ガス発行「天然ガスプロジェクトの軌跡」より抜粋。

その後期間はたびたび延長され最終的に2011年、数量は130万トン、東京ガス30万トン 東京電力100万トンで終えた。

### 1. アラスカ航路

東京湾出航後アッツ島からベーリング海に入りアラスカ半島の南端ユニマーク海峡から北上してクックインレット湾に向かう、入口のホーマーでパイロットが乗船し積み地のケナイ港で接岸まで嚮導する。

冬季の北太平洋は世界有数の非常に厳しい海域であり、加えて積み地のニクスキ港は冬季結氷しないアラスカ唯一の不凍港であるが、風向きによって流氷が流れ込み稀に厚さ1メートル、長さ100メートルほどの氷盤に成長することがある。

海象は細長い地形の影響で積み地周辺では潮位 6～7メートル、大潮のときは12メートルに達した記録もある。

これはニューファンドランドのファンデュー湾に次ぐ世界で 2 番目の高潮に相当する。潮流は 5～6 ノットであるが、たまに 8 ノットに達する。

気温は平均氷点下 5～10 度程度あるが、風向きが北風に変わると一挙に氷点下 40 度になることもあり変動が激しい。



## 2. プロジェクトチームの編成

海上輸送を担当するM社内に代替え船の建造のためのプロジェクトチームが編成された。

チームは両社および社外から、それぞれの分野の人材で構成され、その目的は技術的観点から建造ヤード2社を選定することであった。

チームのメンバーは以下の通りである。

委員長 P社 ケナイ基地の工場長

委員 M社 造船技師 英国の造船所で船舶建造の経験あり

委員 P社 LNGプラントの技師

委員 P社 海技士（機関） 船舶の運航管理

委員 M社 造船技師 コンサルタントオフィスよりLNGタンク設計

委員 M社 電気技師 自動制御、計装関係

委員 M社 海技士（機関）ATSCO 社日本オフィス代表

## 3. 建造ヤード選定

チームの委員長より準備された新造船の建造に関する書類を主要ヤードに送付、応札のあった日本国内4社、国外2社をそれぞれ訪社した。

主要目は

- ① 劣悪な海象条件での運航確保
- ②  $-40^{\circ}\text{C}$ に下がる外気温度、結氷凍結対策
- ③ ケナイ基地での高速潮流（8ノット）強風化下でのタグボート無しの自立着栈
- ④ 適用規則、ABS・USCG（アイスクラスC）、タンク容積87,500m<sup>3</sup>、タンク数4基,BOR 0.18%等

海外ヤード2社の訪問に私は参加しなかったが評価は日本のヤードに比べて格段に低かった。国内のヤードはIHIと他社3社を

1989年7月11日、九州地区のヤードから各社2日間のベースで訪社した。

初日は会社側からそれぞれの担当者がブレゼンテーションされた、各社とも丁寧な対応で、チームの質問にも真剣に回答を戴いた。翌日は主に建造現場の見学であった。見学を終えた日にチーム全員参加の会議を開き、ヤードの評価を議論して Shipyard Evaluation レポート（図1）を作成した。

| JULY 1989  |               | LNG CARRIER NEW BUILDING PROJECT<br>SHIPYARD EVALUATION |        |     |        |        |           |  |
|--|---------------|---|--------|-----|--------|--------|-----------|--|
| CATEGORY   | WEIGHT FACTOR | SHIPYARD RATING ( 0 - LOW to 5 - HIGH )                 |        |     |        |        |           |  |
|  |               | ALSTOM  | BORNEO | IHI | DAEWOO | DAEWOO | TECHNICAL |  |
| MANAGEMENT STRUCTURE   | 1             | 4   | 4      | 4 + | 4      | 3      | 4         |  |
| SAFETY PROGRAM   | 2             | 4   | 4      | 4   | 5 -    | 4      | 5 -       |  |
| TECHNICAL EXPERTISE<br>* Specifications<br>* Containment<br>* Automation<br>* Machinery<br>* Personnel                   | 3             | 4   | 3      | 4 + | 5 -    | 5      | 3         |  |
| QA / QC PROGRAM<br>* Material<br>* Workmanship   | 4             | 4   | 4      | 4   | 4      | 4      | 4         |  |
| DESIGN CAPABILITIES<br>+ Staffing<br>+ Equipment<br>+ Facilities<br>+ Subcontractors                                     | 4             | 4   | 3      | 4 + | 5      | 4      | 4         |  |
| BUILDING CAPABILITIES<br>+ Staffing<br>+ Equipment<br>+ Facilities<br>+ Subcontractors                                   | 5             | 4   | 3      | 4   | 5      | 5      | 4         |  |
| SCHEDULING<br>* This project<br>* Other projects<br>* Resources - design,<br>fab & procurement<br>* LNG building history | 2             | 4   | 3      | 5   | 5      | 3      | 3         |  |
| MATERIAL CONTROL<br>* Ordering<br>* Buying, storage<br>* Scheduling/expediting   | 2             | 4   | 4      | 5   | 4      | 4      | 4         |  |
| TOTAL:   |               | 100   | 84     | 104 | 113    | 107    | 93 -      |  |

図1 Shipyard Evaluation レポート

13日はIHI呉工場を訪問、メンバー全員がSPBタンクに興味があり長時間白熱した会議が行われた。

訪問当時は、タンクは知多工場で製造するが、LNG船建造は呉工場か知多工場か決まっておらず、引き続き17日知多工場を訪問した。

メンバー全員が球形タンクのモス方式では経済的な運航能率の達成に確信が持てないでいたため、ここではSPBカーゴタンクの開発に関するデーターの開示と安全性の評価などに関して2日間徹底的に議論した。

その後、引き続きモス方式とT/Gメンブレン方式の2社を予定通り訪問した。

最終決定は先の Shipyard Evaluation レポートの総合点の高い方から 2 社を選択した。IHI は総合で 3 位だったが、1 番と 2 番がモス方式であったので IHI が繰り上げ 2 番で残った。

#### 4. 建造ヤード決定会議

プロジェクトチームの結論を両社（P社、M社）それぞれに報告し了承をえた。

建造ヤード決定のためにM社のヒューストン本社に候補ヤード2社に参加を要請した。

会議はプロジェクトチームに両社より契約担当、経理担当等が加わり、11月13日より始まった。IHI とはSPB タンクの建造に関する質疑に時間を費やしたこともあり、3日間ほどを要した。

一方の候補ヤードは建造実績もあり協議は1日で終わった。

私は技術会議に出席していたのだが、いずれのヤードが有利なのか、会社の意向の情報が何もがリークされないので不信におもって、私の上司に問い合わせたところ、P社とM社の方針が対立している、P社はLNGタンクの実績と船価を重視すべき、M社は運航能率、安全運航を重視、即ち船価に少々差があってもSPBタンクを採用すべきの方針であることが分かった。

一方の候補ヤードとIHIとはオーストラリア プロジェクト、125,000m<sup>3</sup>型のLNG船7隻の商談で競合して、IHIが失注した。

このことから候補ヤードは今回もSPBタンク方式を受注させることはできない。

平たく言えば SPB 方式に勝つためには船価で勝負する方針のようであった。

ヤード決定の当日朝、IHI担当者から船価に関して「ある提案」を口答で受けた、私はその内容をチームの造船技師にそのまま伝えた。

17 日午後に IHI を指名発表、LNG 船建造の仮契約が締結された。



IHI代表メンバーとジョンソン宇宙センター  
左から3番目が筆者



Polar Eagle 起工式 IHI 知多工場  
前列右端が筆者

#### 5. おわりに

第一番船「Polar Eagle」は1993年6月4日、第二番船「Arctic Sun」は同年12月17日それぞれ竣工した。

両船の活躍に関して以下簡単に紹介する。

①プロジェクト完了の2011年3月（約18年間）、この18年間、両船は揚げ荷予定日を変更することなく安全運航実現した。



買主の東京ガスから実現できた理由を聞かれて、わたしは「実績のないタンク方式の船にも拘わらず、確かな技術的評価を信じて採用した、アメリカ企業合理性とチャレンジ精神、いわゆるフロンティア精神によるものでしょう」と答えた。

②第二十三回日本産業技術大賞。内閣総理大臣賞 受賞

③Ship of the Year 受賞



Ship of The Year 1993 受賞船

Polar Eagle SPB方式LNG船

全長:226m 幅:40m 深さ:26.8m

総トン数:66,174トン

タンク容量:87,660m<sup>3</sup>

(-163℃98.5%積)

主機:蒸気タービン 1基

船主は両船を2008年に英国の海運会社に売船して、3年間の定期傭船契約結び運航を継続した。

私はATSCO日本支社の閉鎖で代表を退任、引き続き売主の海務監督としてプロジェクト完了まで 両船の運航に勤めた。

(添付は官報のコピー)

外国会社の全ての日本における代表者の退任公告  
当社の全ての日本における代表者である藤原隆  
征が退任することに対し異議のある債権者は、本  
公告掲載の翌日から一箇月以内にお申し出下さ  
い。  
平成二十年二月十五日  
神奈川県横浜市中区山下町一九四番地の三  
横浜ニューポートビルディング  
アラスカ・トランスポートエーション・  
サービス・カンパニー  
日本における代表者 藤原 隆征

## C号航海記（第6回）

内海水先区水先人会水先人 会 員 栗 阪 肇

前号まで： 船長初実職としてC号に乗船したのは、熊本県苓北でした。その後、豪州やインドネシアから日本へ石炭をピストン輸送した。

### 6-40) スールー海

スールー海 (Sulu Sea) とは、フィリピン諸島とカリマンタン (ボルネオ) 島北東部の間にある太平洋の内海のことです。Sulu とは、フィリピン領 Sulu 諸島、Sulu 諸島に住む Moro 族中の最大部族のことを示す言葉です。彼らは、スル語を話します。

さて、そのスールー海、積地 Banjarmasin から揚地の富山新港へ向かう道中、今回初めて通ることとなりました。いつもなら、富山新港から Banjarmasin までの往路 (南航) と同じルートを復路 (北航) も選択します。ところが、富山新港を出帆する時、本船に來られ北陸電力殿の担当者から、その場にいた用船社、代理店、著者の3名に対し「予定通りに本船が4月に帰ってくると、沖待ちはないですからね」と、貴重な情報を頂いたからです。つまり、安全の範囲内で急いで石炭 (電力炭と言います) を持ち帰る必要が出てきたのです。

さ～て、それから本船にある参考書「Admiralty Sailing Directions Philippine Islands Pilot」をひっくり返して調べてみたのですが、机上の理論が並べられていたように感じました。著者の英語読解力が低いため、そう感じたのかもしれませんが。そこで、恥を忍んで会社 (海務部長) に、電子メールで教えを乞いました。理由は、①日本人船乗りの間では、スールー海は治安が良くないので通

りたがらない。②2隻前のA号の時、南米大陸最南端にあるマゼラン海峡を通りました。太平洋が大時化であったので、マゼラン海峡を太平洋へとまっすぐ抜けずに、途中から別の水路を通り北上しました。船長も著者 (当時は一等航海士) も別の水路は「想定外」であったため、予習を怠っていました。その失敗から、教科書に載っていないスールー海の別ルートもあるのではないかと考えたからです。

経路は3つあったのですが、結局 Sibutsu Passage - Mindoro Strait、南シナ海 (3,271海里) を選択しました。海務部長のアドバイスは貴重です。実際に経験されているので、説得力があります。と同時に、感銘を受けました。後ほど触れますが、次の最終航海、往復ともスールー海を走らなければいけないこととなったのです。

スールー海の最初でご説明しましたが、日本人船乗りの間では、スールー海は治安が良くないので通りたがらない。前船B号の2人目の船長は、「どうしても通らないといけない場合は、スールー海 (特に、ボルネオ島北部サバ州の沖を昼間に通過する)」と、常々口にされていました。本船C号の前任船長は、「通りません!」とおっしゃっておいりました。通過してから初めて知ったのですが、中国からインドネシアや豪州へと往復する船の多いこと多いこと。

著者は、日本にある船会社の会社員です。そのため、どうしても日本発着の航路に従事することが多いのですが、2005年だったと思います。東京でのサラリーマン (陸上勤務) 生活を終えて、久しぶりに一等航海士として

海上復帰してみると、南シナ海において、船舶交通の流れが陸上勤務前に比べて大きく変化（ズレている）していることに気が付きました。

船乗り先輩の話では、阪神大震災をきっかけとして「その変化」が起こったそうですが、あの頃の著者は商船学校の学生で、しかも、練習船で国内を練習航海しておりましたので、外国へ行ったことがなく、理解することができませんでした。

「その変化」とは、太平洋から極東、インド洋方面から極東、そして、豪州から極東を航海する船は、阪神大震災前までは大部分が日本の港を経由していました。現在は、日本の港には寄港せずに中国や韓国を起点としています。（航空路も同じで、日本には寄らないと耳にしております）その船舶交通の流れをペルシャ湾へ向かって南シナ海を北上する LNG 船で知ったのです。日本人であるが故に、愕然としたのを今でもはっきりと覚えています。有史以来、シルクロードの東の果ては「黄金の国ジパング」だったのに。

その次船も、LNG 船でした。大阪ガス殿の荷物を運ぶ船で、主に泉北、姫路とインドネシア国ボルネオ島 Bontang とを結んでいました。その時、初めて比国ミンダナオ島 Davao City の沖や、本船でも通ったセレベス海、Makasar 海峡を航海しました。今回のスルー海は当時知らなかったもので、船舶交通が少ないものと誤った認識をしておりました。その意味でも、今回のスルー海の経験は、日本人船乗りとして貴重でした。船乗り人生 48 年の本船の機関長ですら、スルー海を今回初めて北上したと感激されておりました。

しかしながら、感激しているばかりではありません。治安の悪いボルネオ島北部サバ州の沖を昼間に通過したものの、初めての経験であったので緊張しました。スルー海の北

部には、サンゴ礁がところどころに点在しております。このサンゴ礁には、それぞれ灯台が 1 つずつあれば本船のような巨大船は安全に航海できるのですが、さすがに莫大な予算がかかるため、灯台はありません。その点、マラッカ・シンガポール海峡は日本政府の援助で、たくさんの灯台が建てられた経緯があります。睡眠時間を削って、時々船橋で航海の指揮を執ることにしました。

## 6-41) 東シナ海

当初は、スルー海からフィリピン国ルソン島沿岸の南シナ海を抜け、台湾の東から黒潮（日本海流）を追いかけて、鹿児島県の西から熊本県と長崎県を右に見て、佐世保と五島列島との間を抜けて日本海へと向かう航海計画を立てておりました。

しかし、台湾の南端まで残り半日という距離になって、2 つ玉低気圧が本船の前面を通過して行ったのです。その低気圧、4 月上旬の日本列島を大荒れにしてしまったようです。桜の花が一気に散ったとか、色々とニュースになりました。その低気圧のため、西よりの強風が吹くと著者は判断し、いつもより台湾に接近して北上をしました。もちろん、海は大時化。船速は大幅にダウン。著者の予想に反して、強い北風は本船を吹き付け、せっかく黒潮で北へ押されているのに、ETA の計算では Required Speed が 1 ノットほど足りません。

仕方がないので、航走距離が延びる黒潮コースを断念し、最短コースで東シナ海を南西から北東方向、対馬海峡目指して突き進むことにしました。初日は、海が大時化直後であったので、中国の漁船大軍団がおりませんでした。しかし、二日目から出てきました。すごい数です！ そうですよ、人口数十億の民を食べさせないといけないので、漁船の数も世界一ですね。漁船軍団の間を縫うように



して走ったのは、4月8日日本時間19時 北緯29度18分、東経125度23分の海域でした。

## 6-42) 富山新港

連続2回目の富山新港に入港したのは、4月12日のことでした。今回は余裕があったので、入港時に海王丸パークを撮影しました。再び、海王丸パークへ行きました。初代・海王丸に1ヵ月ぶりのご挨拶をするためです。



桜並木

別の日、大伴家持が和歌を詠んだといわれる「奈呉の浦」へ向かいました。現在は、テトラポットが並べられ、コンクリートで護岸工事され、さらに、その上に橋がかかっておりました。しかし、遠くを見渡すと立山連峰に囲まれ、本船が着岸している北陸電力の火力発電所の大きな煙突と、新湊大橋が街のシンボルであることが分かりました。富山って、「山に富む」という意味であることが、はっきりと分かりました。

家持は、たえず京都の方向を向いて（気にして）、富山で生活したに違いない。眼前に広がる富山湾は、日本海、東シナ海へとつながり、中国（当時は唐の時代）へとつづくことは知っていたはずだ。歴史の教科書には、「没落の途にある大伴家の家長として苦しんだ」とありますが、本当なのだろうか？ 「746年、越中守として赴任。751年、少納言とし

て帰京」5年間、この富山で何を経験したのだろう？ 759年以降の和歌が残っていないのは、不思議だよなあ？ 色々と考えておりましたが、朝10時が近くなったので開店するスーパーマーケットに立ち寄りました。明日、横浜と広島からお客様が来るので、おでんを夕食に出そうと、買い出しに来たのです。そして、今回は感動的な出会いがありました！ 石炭の揚荷中、本船の船橋にて仕事をしていました。ふっと船尾側を見ると富山高専商船学科の練習船「若潮丸」がいないことに気づきました。「あれっ、珍しいぞ！」そして、目を本船の右舷側（西側）の海面に移してみると、商船学科の学生さんたちがカッター（短艇）訓練をしているではないですか！ いつものくせで、カメラのシャッターをきりました。その訓練様子を見てみると、カッター2艇が艇庫へ戻って行くではありませんか。著者の体は自然とカッターを追いかけて本船から艇庫に向かっていました。きっと、学生時代の自分と学生さん達が重なって「懐かしかった」のでしょう。

艇庫に近づくと、名刺を取り出し、先生らしきお二方に挨拶をしました。先生も、著者の作業服・肩章の姿からC号の船長であることはすぐに判断できたようでした。若潮丸が珍しく、航海に出ていること。カッター訓練が懐かしかったことなど話しかけていると、先生から「キャプテン、もしよろしかったら、うちの学生たちにキャプテンの船を見学させてもらえませんか？」「わかりました。確認してご連絡を差し上げます」と、先生の携帯番号を控えて船に戻りました。

この富山新港にはゲート（門）があつて、19時には閉まるのです。その時、19時に近かったのです。ゲートで守衛さんに学生さん達の見学が可能かどうか尋ねたところ、代理店に確認してくれとのこと。すぐに代理店に電話をすると、「キャプテン、それは無茶な話

ですよ。ここは北陸電力さんの専用バースなので、北陸電力さんと本船の用船社の了解を取る必要があるのですよ。公共バースだったら話が早いのですが、今日は週末だし、了解を取るのに時間がかかるのですよ。」すぐに、先生の携帯にお詫びの電話を入れたのですが、つながりません。留守電にメッセージを残して、ゲートから 100m 先に停泊している本船に戻りました。出帆時、代理店に先生へのお詫びを認めた手紙を投函する依頼をしました。そして、次の麗水へと向かいました。

### 6-43) 東シナ海

麗水にて補油を済ませた後、本船は用船社から最後の一航海だけ別の用船社に貸し出されることになりました。その契約開始が台湾の高雄付近と指定されたものですから、当初計画していた麗水から沖縄、フィリピン国ミンダナオ島 Davao City 沖経由 Muara Satui 行、つまり、前航と同じルートを断念しました。2 回目の富山新港へ向かうため Banjarmasin から北上したルートと全く同じルートを南下することにしました。距離は短いのですが、海流がセレベス海に至るまでずっと逆。まあ、そこはあきらめて最終航海を開始しました。(3 月の売船がのびのびとなって 5 月末となったのです。どうやら、本船の買主が銀行からの融資をスムーズに受けられなかったようです)

東シナ海では、操業する中国「大」漁船軍団をくぐり抜けたと安堵していると、警戒に当たっていた中国海軍の軍艦と夜、しかも至近距離ですれ違ったので、不気味でした。そう言えば、中国の漁船は、マストに特大の中国の国旗を掲揚していて、船体色も軍艦色(グレー)で、まるでミニ軍艦のようです。日本人である著者の目にはいつも不自然に見えてしょうがないのです。

### 6-44) スルー海

麗水から Muara Satui (2 回目寄港) へ向かう時は、全てが順調でした。治安の悪いとされるサバ州を昼間に通りました。ところが、Muara Satui から伊予三島へ向かう時、ひやっとしました。日出前の 5 時頃だったと記憶しております。

ふと、船橋で操船の指揮をしている時、右ウイングに出てみました。たまたま右後ろ、後部甲板近くの海面を見ると、無灯火で本船船尾ぎりぎりに近づいている不審船を発見しました。その瞬間、船橋に戻り、船尾付近の甲板、居住区の作業灯を全て点灯し、汽笛を鳴らしました。それから、一等航海士と相方のセーラーとに、「時々、船尾も見張るように」と、指示をしました。二人は、なぜ著者がそのような動作、指示を出したのか理解できないようでした。

実は、三等航海士として LNG 船に乗船していた 1999 年。南シナ海で海賊(正式には不審船と言います)に、4 時間余り追いかけられたことがあります。しつこかったので、FAX 新聞にも載りました。

不審船の行動は次の通りです。本船の船尾から近づきます。(走っている時は、船尾からが一番どの船にも登りやすいからです)。本船が汽笛や蛇行運転、サーチライトを照らすと 1 海里ほど遠ざかり、しばらくその距離を保っています。しばらくすると、また近づこうとするので、同じ動作を繰り返して、海賊たちが本船に乗り込まないようにします。LNG 船は日本籍船でした。パナマ船籍である本船 C 号も同じですが、自衛のための武器は所持しておりません。乗り込まれたら最後なのです。その時の経験と記憶から、すぐに上記の動作を取ったのです。

それでは、海賊に乗ってこられたらどうするか? その時は、「抵抗しないこと」だそうです。海賊に襲われたり、爆弾を船内持ち込

まれることを想定する、セキュリティの訓練も受けたことがあります。結論は、「抵抗しないこと」です。

### 6-45) 黒潮

日本列島に沿って流れる暖流。藍黒色で、幅は 100 km、流速は毎秒 1.5m 程度。フィリピン諸島の東岸から、台湾の東側、南西諸島の西側、日本列島の南岸を流れ、犬吠埼沖に至って陸から離れ、太平洋の中央部に向かい、亜熱帯還流の一部を形成する。太平洋最大の海流。日本海流、黒瀬川、こくちょう。とも呼ぶ。

日本人の船長、航海士であれば、気象海象の条件次第ですが、この黒潮を利用する航路をまず選択します。例えば、今回のように南シナ海から大分県と愛媛県との間にある豊後水道へ向かうには、フィリピン国ルソン島と台湾との間にあるバシー海峡（ルソン海峡）から、最短コースだと沖縄本島、奄美大島、屋久島、種子島それぞれの南を通ってから豊後水道へと向かいます。しかしながら、最短コースを敢えて選択せず、38 海里ほど余分に走りますが、黒潮を追いかけて台湾の東を北上し、与那国島の近くで針路を北東へ変え、沖縄本島の北、奄美大島の北を通り、場合によっては、大隅海峡へ。または、屋久島と種子島の南側を回って豊後水道へと向かいます。その遠回りの方が、早く到着できることが多いからです。

ところが、今回の航海に限り、作戦が上手くいきませんでした。沖縄本島の南、つまり、最短コースを進むのと所要時間が同じでした。商船学校で学んだ海洋気象学の知識と、航海士時代の経験（実績データの積み重ね）を一度リセットして、黒潮について再研究する必要があります。天候は良かった、潮に大きく作用する月齢も問題なかった。じゃあ、どうして！？

### 6-46) 豊後水道

宮崎県と高知県の間にある日向灘において、5 月 9 日のお昼頃、4 時間あまりエンジンを止めて、ドリフトしておりました。水先人の予定乗船時間まで早いので、時間調整しておりました。

エンジンを始動、船速を増速していくと豊後水道です。豊後水道とは、九州と四国の間にある海峡です。太平洋と瀬戸内海とをつなぐ。長さ 40 km、水深は中央部で 80 から 90m。両岸は典型的なリアス式海岸で、海上には大小の島々が点在し、四国側は足摺宇和島国立公園に属します。

眺めているのには、もってこいの場所（風光明媚）です。でも、船を動かしている著者にとっては、いつも冷や冷やする海域です。いわゆる航海の難所。瀬戸内海から四国南、瀬戸内海から九州・沖縄方面へと向かう船。逆に集まる船。操業中の漁船。大分県と愛媛県とを東西に横切るフェリー。それに、潮流の流れがとても強いのです。特に、水先人が乗船する関崎の付近です。ちょうど、邪魔になる場所に浅瀬もあります。日振島の近くにある「勘兵衛瀬」かんべいせ（水深 5.6m）もあります。

何とか、水先人が乗船したのが 2140 時。速吸瀬戸（豊予海峡）を超えて、瀬戸内海へと入ってしばらくすると水先人に航海の指揮を委ねて、船長室で 3 時間ほど休むこととなりました。船長若葉マークの著者は、当日零時前から一睡もしておらず、頭がもうろうとしておりました。

### 6-47) 来島海峡

島と岩礁が散在し、潮流が速く、瀬戸内海最大の難所です。とにかく、瀬戸内海は難所だらけなのです。主要なものだけですが列記すると、東から明石海峡、播磨灘、鳴門海峡、備讃瀬戸、備後灘、燧灘、来島海峡、安芸灘、



広島湾、伊予灘、速吸瀬戸、別府湾、周防灘。

「サンズイ」に「難しい」、つまり、航海の難所が実に多いことがお分かりだと思います。前回、この来島海峡を通ったのは、えっとー。あれれっ、学生時代の練習船「大成丸」！？遠い昔だぞ。本船乗船中、長崎沖で再開した船です。社会人となってからは、一度も通っていませんでした。しょうがないので、5月10日0300時ごろ愛媛県松山市沖で当直航海士に起こしてもらって、疲労は完全には回復していませんが、船橋に昇りました。いつもなら、この辺りの漁船が沢山操業しているのですが、今朝はほとんどなし。その道の超プロフェッショナルでいらっしゃる水先人でさえ、この来島海峡。何回通っても手に汗を握られるそうです。

来島海峡を無事に通峡し、視界4海里の雲海のごとき燐灘が眼前に広がった瞬間、ふと思い出しました。著者の生家にある、大正生まれの祖父が作成した刺繍「鯉の滝登り」。あの滝「登竜門」は、著者にとって今通峡したばかりのこの来島海峡のことではなかったのかと。天国の祖父に感謝しました。あの刺繍が、今までの、そして、これからの安全航海のお守りだったんだ！

この速吸瀬戸、来島海峡など航海の難所が多数存在する瀬戸内海。本船と、著者が生まれ育った場所です。船乗りに興味を持ち始めた頃や、商船学校であった頃の著者には「大きな」海でした。ところが、今日は「水たまり」のようです。C号の船体が、大き過ぎるからです。でも、この水たまりはC号にとっても楽しそうです。彼女の故郷だからでしょうか。多くの関係者に祝福されて、彼女はこの水たまりから世界の海へと船出したのです。1998年4月1日のことでした。

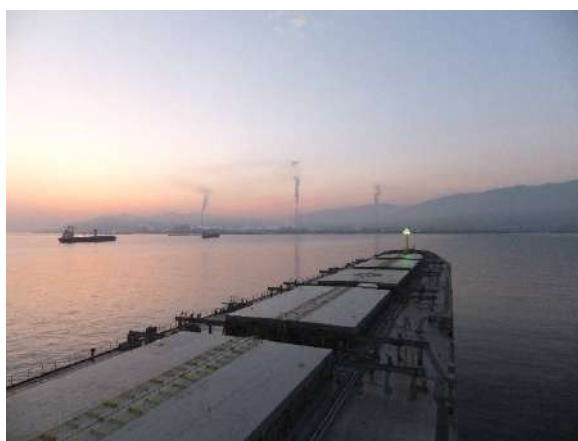
## 6-48) 三島川之江港

最後の航海は積地と揚地とも、本船が往路、

南下しながら台湾に近づくまで決定しませんでした。燃料油を十分に持っていたので、豪州東南部の積地であっても日本には帰ってこられるので安心はしていました。港にある製紙会社の荷物を運ぶことが正式に決定した時、これはC号から著者への最後のプレゼントだと確信しました。なぜなら、本船に乗船する直前まで著者はこの港のある愛媛県四国中央市（旧川之江市）に住んでいたからです。

四国中央市、2004年、川之江市、伊予三島市、新宮村、土居町が合併して成立した市。四国内の高速道路網の要地で、製紙工業が盛ん。愛媛県の東端に位置し、東は香川県、南東は徳島県、南は四国山脈を境に高知県に接する。四国最大規模の国際貿易港となる四国ロジサイトの建設が進められている。人口9万2854人（2005）

つまり、愛媛市、高知市、徳島市、高松市、どこへ行くのにもここ四国中央市からだとはほぼ同じ距離です。しかし、地元には高校が県立三島高校と県立川之江高校しかなく、進学のため親元を遠く離れなければなりません。どこの田舎も同じですが、この四国中央市も高齢化が進んでいます。



三島川之江港の検疫錨地にて

『瀬戸内海水路誌』海上保安庁によると、三島川之江港は以下原文ママ

＜概要 愛媛県の東端、香川県との県境近く

にあり、北部の旧川之江港と南部の旧三島港が合併してできた港で、臨海工業地域の造成、岸壁築造などにより、大型船の入出港隻数が年々増加している。製紙及び紡績工業が盛んで、工業港として発展してきており、主な輸入品は原木、輸出品は紙製品である。＞

伊予三島の検疫錨地から1海里南に、四国中央市の市街が広がっています。かつて著者が生活していた場所であるため、それぞれの景色や建物の細部に至るまで思い出が沢山詰まっています。ここで生活していた時、社宅（マンション）の部屋からちょうど東赤石山が見えていました。自家用車で毎日通勤していた時、往復ともこの山がよく見ていました。海岸から最も近い高山として他に類を見ない東赤石山（標高 1,707m）が当時も今も気になっているのです。

## 6-49) ペガサス座

ラテン語で、Pegasus。（ギリシア神話のペガソスに因む）北天の星座。アンドロメダ座の南西、白鳥座の南東にある大星団。10月下旬の夕方に南中する。星座中、4個の星が形成する四辺形をペガサスの方形という。ペガサスとは、ギリシア神話中の翼を持つ神馬。ペルセウスに殺されたメドゥーサの肩の切り口から生まれた。英雄ベレロフォンの持ち馬となり、怪物キマイラ退治やアマゾン族との戦いで活躍する。また、ひづめで地を蹴って多くの泉を噴出させた。死後天上に昇って星座になったという。天馬。ギリシア語名ペガソス。ラテン語名ペガサス。この項まで内緒にしていたましたが、実は、本船船名の一部には「ペガサス」が付きます。

話は変わりますが、船のエンジンの大きさを表す単位に、最近まで「馬力」を使用していました。今は、キロワットです。ちなみに、本船のエンジン（主機関）の大きさは、13,900馬力。馬力とは、動力（仕事率）の実用単位。

1馬力は、馬1頭の動力に相当します。つまり、本船は馬13,900頭で引っ張ってもらって走っています。そう！ペガサス号は「大海原を走る神馬」なのです。洋上を走る本船ペガサス号が運ぶのは、主に火力発電所向けの石炭です。著者が乗船してからは、

124次航 75,230 トン（豪州炭）

125次航 66,000 トン（同上）

126次航 76,011 トン（同上）

127次航 66,000 トン（インドネシア炭）

128次航 66,000 トン（同上）

129次航 76,048 トン（同上）

合計 425,289 トンの「黒いダイヤモンド」を日本へ運びました。

著者は、たまたま社命によりペガサス号にまたがり、原子力発電所の完全再開ができない今、その不足分電力を補うための、どうしても必要な「黒いダイヤモンド」を豪州大陸、インドネシア国カリマンタン島から日本へ運びました。最後に売船という想定外の別れとなりました。そのための8カ月の乗船期間でしたが、ペガサス号は初めて船長として実職を執る著者に、実に数多くのことを教えてくれました。

「オリオン座から少し離れたところに僕（私）はいるよ。オリオン座ほど目立たない（明るくない）けど、いつまでも君のことを天上界から応援しているからね。商船学校で学んだ、航海術の基本を忘れないでね。基本とは安全運航。安全とは現場を「自分の目」で確認することだよ！」

（次号へつづく）

# 大島商船高専資料館で見る昔の商船教育の姿

大島商船高等専門学校 福本勇規



大島商船高専資料館

大島商船高専は 1897(明治 30)年の、「大島郡立大嶋海員学校」としての創基以来、多くの卒業生を海事業界に輩出しているが、大島商船高専では資料館を設置しており、各々の時代で使用されてきた教材などの資料を収集・保存してきた。この度、2019(平成 31)年以降も整備が進み、学外からも広く来館者を受け入れられる体制が整った。ここに、資料館の概要および一部収蔵品を紹介する。

## 1 資料館の概要

本校の資料館は 1977(昭和 52)年の創基 80 周年記念事業「目で見える本校の歴史」展示の際に学内および多くの卒業生の方から寄せられた多くの資料を基盤としている。しばらくは学内校舎地区の小松会館(現在は食堂として利用)、1990(平成 2)年には現在地(寮地区;元は食堂、面積は約 120m<sup>2</sup>)

移転し、大島丸(第 2 代)のファンネルマークを壁面に掲げるなど、断続的な整備活動が行われていた。

## 2 主な展示品



日本丸(初代) 模型  
長さ約 3m、高さ約 2.5m

本校の資料館で最も象徴的な展示品は日本丸(初代)の模型である。1931(昭和 6)年の日本丸(初代)の小松港入港の後、当時の本校職員田村栄治氏(現在の技術職員に相当)は日本丸の雄姿に接し、田村氏の記憶に残る、過去に運航され続けて海難により喪失した本校練習船「海平丸」「山口丸」「防長丸」を追憶し、沈まぬ「日本丸」を自らの手で作って、海底の御霊に供えようと決意した氏は、通常業務の傍ら学び続けていた造船技術を生かし、3 年の歳月をかけて製作された。その後、授業で活用される、山口県立博物館や創立記念行事などの学校行事で



展示されるなど、時代に応じて、学生への教育、学校・海事業界のPRのための重要な資料として大切に扱われてきた。大きさは異なるが、「鳳翔丸」「北光丸」など、戦前の商船学校で使用された教育用帆船模型と同様な使用方法がされていたことが判明しており、貴重な存在となっており、現在ではガラスケースに収められている。



大島商船高等学校校舎模型  
1943(昭和 18)～1971(昭和 46)年に使用  
現在の寮地区、模型の大きさは約 4m<sup>2</sup>



1897 年創基当時に使用された  
ノート・教科書



影山元副会長のイギリス海技士免状  
1922 年取得

また、田村氏は創基当初の大島郡立時代の校舎、県立時代の校舎、高等学校時代の校舎の模型も製作しており、こちらも現存・展示している。創基当初から使用されてきた数々の教科書や卒業証書・免状も保管している。中でも、影山保夫 元全国商船学校十一会副会長の「イギリス海技士免状 エクストラマスター」の免状は目を引く存在である。氏は大島商船学校在学中にこのイギリス海技士免状を取得したことにより卒業を認められ、戦後は阪神水先区で水先人として活躍され、海事界における貢献は非常に大きいものであった。

### 3 思い出の品々

本校の資料館では、商船学校や海事業界では欠かせず、関係者の皆様にとっても思い出深い制服は、卒業生から寄贈を受けた2020(令和 2)年度まで使用されていた「三つボタン・詰襟」の学生服および、日本郵船関連企業の船長制服を収蔵している。



詰襟・三つボタンの本校制服  
2020 年まで使用



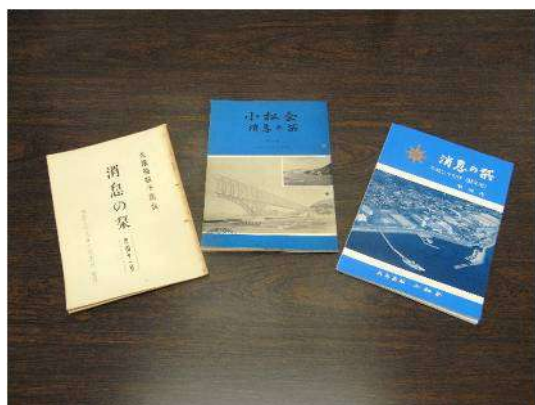
日本郵船関連企業の船長制服

卒業写真については、第 1 期生～近年までのほぼ全てを収蔵しており、初期のものは展示しているほか、卒業生・ご家族の方には閲覧を対応している。

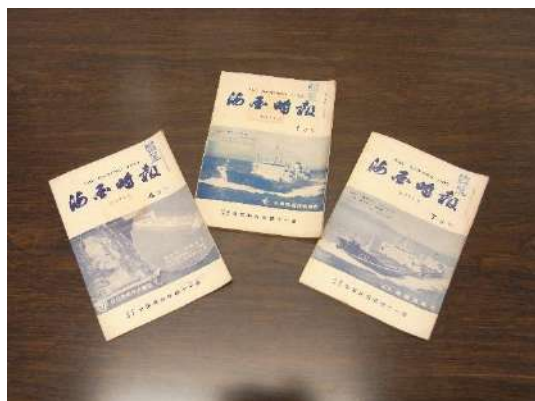
さらに、1958(昭和 33)～2015(平成 27)年まで、大島商船の同窓生有志で制作・発行された「千鳥会・小松会消息の葉」も収蔵している。全 149 冊発行されたうち 139 冊を収



初期の卒業写真



千鳥会・小松会消息の葉



過去の会報「海国時報」

1950～1970 年代を中心に一部収蔵

蔵しており、当時の学生や海事職員の生活ぶりを現代に伝える貴重な記録となっている

る。過去の全国商船学校十一会・全日本船舶職員協会会誌(「海国時報」「全船協」など)の一部も収蔵している。

#### 4 その他の展示品



大島丸（初代）進水記念斧  
1958(昭和 33)年 1 月 9 日進水



大島丸（第 2 代）進水記念斧  
1969(昭和 44)年 1 月 23 日進水

大島丸（初代・第 2 代）の進水記念斧、大島丸（第 3 代・第 4 代）の竣工記念品（1993(平成 5)・2023（令和 5）年竣工）、2017（平成 29 年）の創基 120 周年記念など過去の周年記念行事・国際交流行事の記念品、同窓生から寄贈を受けた多くの美術・陶芸作品なども展示している。



2017(平成 29)年の創基 120 周年  
記念行事の記念品

#### 5 まとめ・開館案内

本校に限らず、制度創立から 60 年を超えた高等専門学校において、学校の運営資料の管理・保全是重要度が高くなっている。「商船学校」をルーツに持ち、今日まで貴重な資料を収集・保全してきた資料館を今後とも維持管理し、より学校・海事教育の PR などに役立てたい。

##### 開館案内

開館日：平日・一部学校行事開催日

開館時間：9:00～17:00

入場料：無料

連絡先：0820-74-5524（企画係）

臨時に休館する場合があるため、来館されたい場合は事前に連絡をお願いしたい。

##### 参考文献：

福本勇規・千葉元「大島商船高等専門学校資料館-商船学校 125 年の歴史上の資産の整備・保存及び展示-」, 日本航海学会誌第 228 号, pp65-74, 2024 年 4 月





日々勉強！  
結果に責任！

参議院議員(比例代表 全国区)

**赤池まさあき**

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから～



令和7年(2025年)1月1日(水曜日)

**自民党 Lib Dems**  
Liberal Democratic Party of JAPAN

**国政ニュース**

「海の日」7月20日固定化へ！

## 商船高専練習船 更新の要望を実現！

**官民連携で海洋教育推進プロジェクトを推進！ 教科書改善と教育環境整備へ！**

新年のご挨拶を申し上げます。旧年中のご厚情に感謝申し上げ、本年もご指導の程をお願い致します。

我が国は海洋国家であり、それを担う海事産業は、国の基盤、国益に資する産業群です。人口減少社会、人手不足時代の中、担い手を育成し確保することは最重要課題です。

### ◎海洋教育推進プロジェクト

私は、海事団体から海洋教育推進の要望を受けて、平成二八(二〇一六)年から官民一体となった「海洋教育推進プロジェクト」を立ち上げました。そこで、座長として、学習指導要領を改定し、小中高校の教科書への海事産業に関する記載充実、各地の教育委員会との意見

交換等、その推進に取り組んできました。

海洋人材の育成にあたっては、海洋系大学や水産高校、海技学校とともに、五年制の商船高等専門学校(商船高専)が、その役割を長年担っていました。

平成三十(二〇一八)年九月、私は、愛媛県上島にある弓削商船高専に視察し、それを契機に、商船高専五校の卒業生を中心に設立された全日本船舶職員協会(全船協)の酒迎和成会長(当時)と、定期的に海事振興・人材育成について意見交換をするようになりました。

### ◎商船高専練習船の老朽化

その意見交換の過程で、酒迎会長(当時)から、商船高専五校の練習船がどれも二十年以上使用され、老朽化しており、更新の時期を迎えているとの話を伺いました。そこで、商船高専五校の教職員や卒業生、地域一体となった期成会を組織し、海事諸団体にも協力して頂いて、要望を取りまとめいくことにしました。

関係国会議員で、富山高専の練習船若潮丸を視察させて頂き、老朽化した練習船では教育に支障が出かねないという実情を改めて認識するに至りました。

練習船実習は、船員教育の要であり、最新の機関や設備を用いた教育の重要性や、女子学生の増加に伴う船内の環境整備、そして、昨今の災害が頻発化する状況と踏まえ、地域の防災拠点としての新たな必要性も要望として出されていました。

そのような中、同年十一月六日、自民党本部において、商船五校、地元首長、海事産業関係の皆様にお集まりいただき、関係国会議員とともに「商船高専五校の練習船更新と教育の充実」に向けての集会を開催し、決議をいたしました。集会后、財務省と文部科学省への練習船更新の要望活動も行いました。

その結果、関係各位の長年のご尽力により、商船高専五校をはじめとした練習船の船齢順に計画的な更新の方針が決まりました。具体的には、耐用年数二重年を超えた老朽化した練習船の更新が実現しました。



赤池誠章(あかいけまさあき)

昭和三十六年山梨県生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成の専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文教科学委員、自民党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣等を務め、現在、党政務調査会副会長(三期)、海事振興連盟常任理事、海事立国推進連事務局長、海洋教育推進プロジェクト座長。参議院議員二期目。

### 《国会事務所》

〒100-8962  
東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館524号  
TEL: 03-6550-0524  
FAX: 03-6551-0524  
HP: <https://www.akaike.com>

### 《後援会 会員募集》

後援会員を募集しています。  
詳細は事務所まで！





日々勉強！  
結果に責任！

参議院議員(比例代表 全国区)

**赤池まさあき**

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



令和7年(2025年)1月1日(水曜日)

**自民党 Lib Dems**  
LIBERAL DEMOCRATIC PARTY OF JAPAN

**国政ニュース**

「海の日」7月20日固定化へ！

# 大学・商船高専の練習船、順次更新中！

まずは、令和元・二年度の国土強靱化緊急対策で、東京海洋大の汐路丸(昭和六二年建造)と神戸大の深江丸(昭和六二年建造)の更新が始まり、令和元年度補正・三年度で、北海道大のうしお丸(平成四年建造)が更新され、そして、商船五校の練習船の更新へと続きました。事業費は一隻五十億円程度で、設計一年・建造二年で順次更新していくことになりました。

習船を船齢順で更新することとし、技術革新に対応した最新の設備機器を導入して海洋人材育成の高度化を図るとともに、コロナ禍を経て感染症対策の考慮に加え、女性に配慮した船内の環境整備や、災害時の支援機能も持った船となります。



令和4年10月13日大島丸進水式



令和6年3月22日  
弓削丸竣工式

新練習船は、各高専の要望を十分聞き取り、船体を二倍の大きさとし、最新の機器を導入して教育環境を整え、また、今後増える予定の女性

①そしていよいよ、大島商船高専「大島丸」の設計と建造がなされ、三菱重工下関造船所での進水式を経て、令和五年三月十九日に学校に引き渡されました。  
②次は、弓削商船高専「弓削丸」の設計と建造が行われ、岡山玉野の三菱マリタイムシステムズでの進水式の後、令和六年三月二十二日に学校へ引き渡されました。  
③ようやく今回、鳥羽商船高専「鳥羽丸」が、前年の弓削丸同様に玉野での進水式を迎えました。来年春には引き渡しとなります。



令和5年11月5日 旧鳥羽丸を視察

高専生に配慮した船室の配置や、防災拠点となるよう基本設計が共通化されました。一方、各校独自の部分もあり、大島丸は電気推進船、弓削丸は学校と即時で通信できる画像教育設備や電光掲示板等が設置されました。

今回の鳥羽丸は、自動運航システムや船と学校を即時に結ぶ船陸通信装置を通じた本船上機器の遠隔操作、外洋航海対応、ディーゼル主機で電動補助推進付等の最新の設備機器を導入するとの事。

④現在、富山高専「若潮丸」の新練習船が発注済であり、建造作業に入っていると聞いています。補正予算を獲得し、今秋に進水、来年春には竣工となります。

参議院選挙の投票方法  
「2回」投票します  
①都道府県選挙  
②比例代表選挙

① 都道府県選挙区  
各都道府県の候補者名を書いて投票します。

② 比例代表(全国区)選挙  
全国どこからでも、比例区の候補者名を書いて投票できます。(政党名でも可)



比例代表選挙は、政党名およびその政党に属する候補者個人への投票数の合計に応じた各政党への議席配分から、候補者名の多い順に当選者が決まる非拘束名簿式です。

その他、国政報告は、ぜひこちらをご覧ください！



⑤今後も、予算確保を前提に、広島商船高専「広島丸」が更新される予定です。この練習船更新を契機に、海洋国家を担う海洋人材が育成され、各校が立地する地方創生と防災強化にも繋がっていかれると思っています。今年も、海事振興に全力を尽くします。ご指導をお願い致します。(赤池まさあき)





## 富山高等専門学校

### ○「洋上救命講習」を実施

今年度の「洋上救命講習」は7月19日（金）に実施され、商船学科学生40名が洋上での救命技術を体得することを目的とする本講習に参加しました。着衣のまま救命胴衣を着用した状態で総員退船時を想定した実習が行われました。実習ではライフラフトを投下後、受講学生は練習船「若潮丸」から一人ずつ飛び込みをしました。そして飛び込み後にライフラフトを目指しての着衣水泳を行い、ライフラフトに乗り込んだ後に再び若潮丸に泳いで戻り、船尾側に設置された縄梯子を登り、若潮丸に帰還しました。近年では水泳の授業を経験している学生が少なくなっており、泳力に自信がないという学生が多い中での実施でしたが無事にこの実習を終えることができました。また、午後からは遭難時を想定した各種信号の打ち上げ実習も行われました。本講習のような状況に学生たちが将来遭遇することのないよう祈りつつ、もしものときには本講習の経験が学生たちの役に立つことを期待しています。



飛び込みの様子



ライフラフトに乗り込む学生ら



縄梯子で若潮丸に戻る学生ら

### ○ 夏季オープンキャンパス

今年度は8月3日（土）～5日（月）の3日

間で夏季オープンキャンパスを実施しました。

各日の最初の時間帯に行われた全体説明会で商船学科を含めた学校全体の説明後、商船学科ではオープンキャンパスの内容として、本校施設の臨海実習場や練習船「若潮丸」に乗船してもらい、参加者に色々な体験を経験してもらう機会としました。

8月3日(土)は「練習船若潮丸見学と船内での体験講座」と題し、臨海実習場に停泊した若潮丸内においてブリッジや機関室などの船内施設を見学後、チャートワーク体験講座や船内でのブラックアウト体験講座を実施しました。

参加者は入学後に受けることができる授業内容の一端を経験し、将来のことを思い描く良い機会になったものと思います。

また、4日(日)・5日(月)は「若潮丸に乗って船・港・海の仕事を見てみよう」と題して、練習船に乗船しての船内見学の後、出入港時および航海中の海や港を見学する体験航海を実施しました。船で航海することが初めてという参加者が多いと思われるため参加者はとても楽しんでいる様子が伺えました。

各日において参加者は船内の様子や機器を実際に見学し、体験講座および体験航海を通して乗組員、商船学科教員、補助学生との交流によって船員の業務や船の魅力について理解を深めてもらう貴重な機会となったと思います。



全体説明会の様子



若潮丸への乗船



機関室の見学



ブリッジの見学



チャートワーク体験





若潮丸の説明の様子

### ○ 商船学科 4 年生の長期乗船実習と後学期授業開始

10月1日（火）に商船学科4年生が無事に日本丸と銀河丸に分かれて乗船完了しました。

今回の実習は5ヶ月間の長期乗船実習であり、学生たちはこのような長い期間において学校を離れて船の生活することは初めての経験となります。学生たちはこれまでの勉学の成果をこの実習で発揮しさらなる飛躍を期待するとともに、慣れない生活への不安の気持ちを抱えての乗船となったようです。この実習が終わればいよいよ就職活動も本格化してきます。各々の学生がこの長期乗船実習において得難い経験を積み、将来の自分をより鮮明に思い描けるようになることを期待しております。

また、10月1日（火）には専攻科海事システム工学専攻の入学式があり、3名の学生が入学しました。代表者から、専攻科でより専門的な知識を習得し勉学に励みたいとの誓いの言葉がありました。

本科生も後学期の授業が始まりました。各学生とともに将来に向けた座学や実習、資格取得等に励んでおります。5年生は残り半年となった席上過程にて授業と卒業研究の両方に取り組んでいくことになります。

### <学生会活動>

#### ○ 海浜清掃

10月2日（水）に、学生会および美化委員会が主催して、射水キャンパスの電子情報工学科、国際ビジネス学科、商船学科の各学科2年生による海浜清掃を行いました。各クラス、ゴミ袋がいっぱいになるまでゴミを拾い、日頃お世話になっている学校周辺をきれいにすることができました。収集したゴミは、最後に学生会が分別を確認して処分しました。



#### ○ 秋季スポーツ大会について

10月9日（水）に学生会主催の秋季スポーツ大会を実施しました。秋空のもと学生はのびのびと楽しんでいる様子でした。また、本郷キャンパスの学生が作成した各競技の進行状況などを確認することができるアプリを活用するなど新しい試みもありました。



【教務主事補 商船学科 清野義敬】

## <課外活動>

### ○ 令和6年度 高等学校総合体育大会

7月21日（日）から8月20日（火）の期間に開催された全国高等学校総合体育大会に、柔道女子の競技で学生が出場しました。

### ○ 第59回北陸地区高等専門学校体育大会

6月29日（土）から7月7日（日）の日程で、第59回北陸地区高等専門学校体育大会が開催されました。今回は富山高等専門学校が主管校で実施されました。日頃の練習の成果を発揮し、多くの学生が全国高等専門学校体育大会への出場を決めました。

### ○ 第59回全国高等専門学校体育大会

8月21日（水）～9月18日（水）の日程で、第59回全国高専体育大会が北海道地区で開催されました。多くの学生が日頃の練習成果を発揮し、好成績を収めました。

| 競技 | 種目             | 順位 |
|----|----------------|----|
| 水泳 | 女子 200m 個人メドレー | 1位 |
| 柔道 | 女子無差別級         | 3位 |
| 陸上 | 男子砲丸投          | 4位 |
|    | 男子円盤投          | 6位 |

### ○ 第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

10月19日（土）～20日（日）、なら100年会館にて第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト本選が開催されました。今回のテーマは「まほろばの地で古都ロジータ開花」です。射水キャンパスからは自由部門で参加し、本選では敢闘賞を受賞しました。

### ○ 【快挙！】全国高等専門学校ロボットコンテスト東北北陸地区大会の結果について

10月6日（日）に開催された、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト東北北陸地区大会「ロボたちの帰還」において、本校射水キャンパスメカトロ技術研究部のプロジェクト名「プトレマイオス」が14年ぶりに優勝しました。11月17日（日）に東京の両国国技館で開催される全国大会に出場します。



### ○ 高専英語プレゼンテーションコンテスト東北北陸地区大会

11月2日（土）に、第18回東北北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストがオンラインにより実施されました。射水キャンパスからは、商船学科4年の船木万莉さんが出場しました。結果は惜しくも4位となりましたが、学生たちは、夏休み前から原稿を書き、何度も修正したり発音練習をしたりしました。当日は他のスピーカーや審査員のコメントから多くを学ぶことができました。

【学生主事補 商船学科 小林 大】

## 「北斗会便り」

師走に入り、立山も雪化粧となりました。今年は11月上旬を過ぎても暖かい日が多く、富山地方气象台によると立山の初冠雪の観測は平年より1か月ほど遅く、観測史上2番目の遅さとなったそうです。

日毎に寒さが厳しくなる季節です。体調管理には一層気を付けていきましょう。

### ○ 能登豪雨見舞金贈呈について

令和6年9月に発生した能登豪雨により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災された皆様の生活が一日も早く平穏に復することを祈り申し上げます。

北斗会では、元日発生の能登地震の被災見舞金贈呈を継続するとともに、能登豪雨での被災見舞金の贈呈を行うこととなりました。

被災会員の方がお近くにいらっしゃる場合は、お声がけいただき、北斗会事務局へご連絡いただければと思います。(詳細は北斗会HPに掲載しています。)

### ○ 北斗会・ほんごう会・富山高専同窓会名簿管理システムの統合等について

現在、北斗会(旧富山商船同窓会)では、富山高専同窓会、ほんごう会(旧富山工業高専同窓会)と、それぞれの同窓会の名簿を統一して管理し、Web上で運用するシステムを構築し、運用を始めたところです。将来的には会員同士がこの名簿システムを通してつながりを広げていくようにと、期待が込められています。

10月末には北斗会会員へこの名簿システムの運用開始をお知らせする案内文を発送しました。

また、この案内に併せ、令和7年度竣工予定の母校練習船 新若潮丸の建造に多大なるご尽力をいただきました、赤池まさあき参議院議員の後援会申込用紙も北斗会会員へお送りしました。

### ○ アイディア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024

#### 東海北陸大会 優勝！

令和6年10月6日(日)静岡県沼津市内において東海北陸地区大会が開催されました。富山高専射水キャンパスから出場したAチーム「プトレマイオス」は予選リーグにて、東海北陸地区大会では唯一の着地得点最高点である100点を得点し、決勝トーナメントに駒を進めました。その後も勝ち進み14年ぶりの優勝という快挙を成し遂げました。



競技中のAチーム「プトレマイオス」



表彰式で優勝の賞状と楯を掲げるAチーム

### ○ 北斗会より全国大会出場へ向けて激励金の贈呈

10月21日(月) 北斗会玉川宏会長が本校メカトロ技術研究部の部室を訪問しました。

メカトロ技術研究部員(代表 電子情報工学科5年 益子聖君)に東海北陸地区大会での優勝を讃えとともに、全国大会での健闘を期待し、激励金を贈呈しました。





玉川北斗会会長よりメカトロ技術研究部代表の  
電子情報工学科5年益子聖君へ激励金の贈呈



メカトロ技術研究部員と顧問の由井四海教授、  
玉川北斗会会長

【北斗会事務局 中前 薫】





# 鳥羽商船高等専門学校

## ○ 練習船「鳥羽丸」(三代目)退役セレモニーを 行いました

令和6年6月14日(金)、鳥羽商船高等専門学校において、本校が保有する練習船「鳥羽丸」(三代目)の退役セレモニーを挙行了しました。

本練習船は平成6年(1994年)に竣工された全長40メートル、総トン数244トンの船です。時代に合わせた最新の機器や幅広い教育に対応した各種調査・研究設備を備え、優れた航海士および機関士を輩出することに貢献しました。

約30年間の運航期間において、1,000人以上の学生が本練習船で学び、知識・技能を修得しました。

退役セレモニーは商船学科 山田智貴教授が指導する学生団体「Tobamaru Project Team」によって実施された企画で、全学生、教職員および来賓が参加しました。鳥羽丸クイズ大会が行われた後、式典が挙行され、古山雄一校長、窪田祥朗商船学科長、本校実習生の永田渚さん、齊心俊憲船長、山野武彦機関長および大野伸良前機関長によって練習船「鳥羽丸」(三代目)退役に対する挨拶と言葉が述べられました。

その後、学生有志らによって練習船「鳥羽丸」の最後の航海が実施されました。帰港後、船員らによって鳥羽商船高専のファンネルマークが取り外され、練習船「鳥羽丸」(三代目)は役目を終わりました。

練習船代船「鳥羽丸」(四代目)は現在建造中です。この練習船代船は鳥羽丸(三代目)の特徴を継承しつつ、鳥羽商船高等専門学校の位置する伊勢湾・三河湾・太平洋沿岸における航行能力を強化するように設計されています。さらに、最新技術である自律航行と災害時における支援能力を有する計画であり、来春令和7年3月に竣工することを予定しています。



## ○ 令和6年度体育祭を開催しました

令和6年6月20日(木)、鳥羽商船高等専門学校において、全学生が参加する体育祭を実施しました。

体育祭は本校の学生会が運営団体となり、

毎年開催されています。今回の競技種目は、バスケットボール、卓球、綱引き、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス、ミニサッカーおよびeスポーツの合計8種目で、各クラス対抗で競技が行われました。

学生らは競技や応援で汗を流し、グラウンドや体育館に大きな歓声が響き渡っていました。



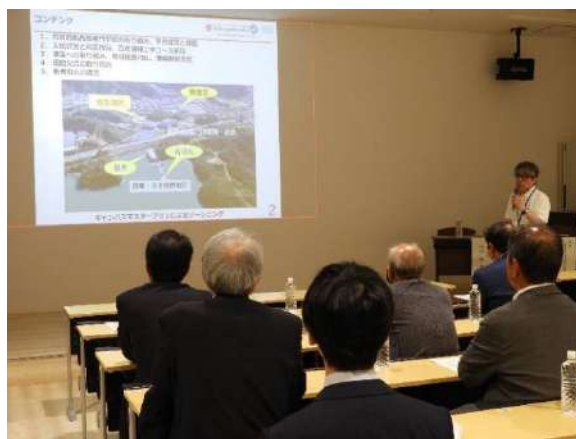
た。

## ○ 令和6年度鳥羽商船高専連携協力会総会を開催しました

令和6年6月21日（金）、鳥羽商船高等専門学校メディアホールにおいて、令和6年度鳥羽商船高専連携協力会総会を開催いたしました。

この連携協力会は、企業と本校の技術交流や連携事業を仲介・促進し、実践的技術者の育成と地域社会の発展に貢献するため令和4年4月に設立されました。令和6年6月時点で116の企業および個人会員が所属しており、本校の教育・研究活動を様々な面から大きく支援しています。

今回の総会は、対面およびオンラインのハイブリッド形式で開催されました。まず、菊川厚会長と中村欣一郎鳥羽市長による挨拶が述べられたあと、鈴木英敬衆議院議員によるビデオメッセージを拝聴し、古山校長から鳥羽商船高等専門学校の現状について会員に説明がありました。その後、前年度における本連携協力会の活動実績や決算が報告され、今年度の役員、事業計画や予算案といった議題が議決されました。そして、本校学生が本校各研究室と地域連携の状況について会員に報告し、会員と情報交換会を行いました。



## ○ 高専フェス 2024 に出展しました

鳥羽商船高等専門学校は、令和6年6月23日（日）東京、7月14日（日）大阪で行われた国公立私立高専合同説明会（KOSEN FES）2024に出展いたしました。

KOSEN FESとは高専をもっとよく知っていただくために毎年開催されている合同説明会で、高専への受験を考えている小中学生とその保護者を主な対象としています。

今回も全国の高専が集まって各々の研究紹介や製作物の展示、体験教室、模擬授業やトークセッションに加え、各校の学生・教職員による個別相談が行われました。本校からも学生・教員が参加し、体験教室を通じて本校のことを紹介するとともに参加者からの質疑に応えました。



## ○ 「スマホ・ケータイ安全教室」を開講しました

令和6年7月31日（水）、鳥羽商船高等専門学校メディアホールにおいて、「スマホ・ケータイ安全教室」が開講されました。



本授業は KDDI スマホ・ケータイ安全教室事務局の方を講師として招き、実施されました。近年、インターネットを介したトラブル・犯罪は年々増えており深刻な状況です。

本校においてはほぼすべての学生がスマートフォンを所持しておりインターネットに触れる機会は非常に多いことから、インターネットを安全に使用方法への理解を深める



機会を設けています。

## ○ オープンキャンパス 2024(8 月開催)を実施しました

令和 6 年 8 月 9 日（金）と 10 日（土）、鳥羽商船高等専門学校においてオープンキャンパスを実施しました。

今年度も午前および午後の 2 部制で学校全体説明と希望する学科の見学会を行い、鳥羽商船高専を参加者に紹介しました。さらに、専門的な技術を学ぶ高専の授業に触れてもらうため、商船学科ではロープワーク・操舵・ROV 操作、情報機械システム工学科ではプログラミング・機械学習という体験講座も行いました。

商船学科を見学した参加者からは「難しそうだったけど、教えてもらうことでできるようになり嬉しかった」、「大きくて様々な機械を見て、面白そうだった」、「自分で部品も作ってしまうとは、すごいと思った」。

情報機械システム工学科を見学した参加者からは「今日見た研究はとても面白そうだった」、「農家を支援するシステムに興味があってオープンキャンパスに参加した。色々な取り組みがあることを知り、具体的な内容を聞



くことができよかった」という感想がありました。

## ○ 令和 6 年度の商船学科卒業証書授与式および専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙行了しました

令和 6 年 9 月 20 日（金）、鳥羽商船高等専門学校において、第 53 回商船学科卒業証書授与式および第 17 回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙行了しました。

式では、江崎修央副校長が校長を代理して商船学科卒業生 31 名に卒業証書を、専攻科（海事システム学専攻）修了生 3 名に修了証書と学位記をひとりひとりに手渡したあと、



鳥羽商船高等専門学校を巣立つ卒業生と修了生に向けて激励の言葉を述べました。

卒業生代表は「5 年半で私たちは多くを学び、経験しました。教室、寮生活、部活動、練習船での実習など全ての日々が大切でかけがえのない思い出で、私たちの青春でした。

今日、私たちはここを卒業し、それぞれの道に針路をとり、日本海運を支える一員として新たな大海原に乗り出します。将来、どんな大波に揉まれたとしても、鳥羽商船で過ごした日々や仲間の存在が私たちの取るべき航路を決める糧となり、前に進むための推進力になると信じています。これまで真摯に指導し



てくれた教官、支えてくれた職員、見守り続けてくれた家族に感謝し、在校生の活躍と鳥羽商船のさらなる発展を願っています」と答辞を述べました。

### ○ 鳥羽丸代船命名・進水式を挙行了しました

令和6年10月8日(火)、岡山県玉野市の三菱重工マリタイムシステムズ株式会社において、4代目となる新造練習船の命名・進水式が挙行され、各界の来賓、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社および本校の関係者約120名が出席しました。

まず、独立行政法人国立高等専門学校機構の

谷口 功理事長が新造の練習船に「鳥羽丸」と命名しました。その後、本校商船学科5年生の谷結野さんと山口 なづなさんが支綱切断を行うと鳥羽丸はゆつくりとドックから引き出されました。くす玉が割られ、会場では大きな拍手が沸き起こり、無事に鳥羽丸が進水できたことを喜ぶ様子が見られました。

今後、本船は艤装工事、試運転などを経て令和7年3月に竣工する予定です。

### 【商船学科航海コース 齊心俊憲 記】

今年度6月から10月までの本校での出来事を振り返りました。

6月14日に三代目鳥羽丸が退役を迎えました。30年間もの長い期間、本校学生等の実習に関わった練習船との別れに際して、本校教職員、学生、同窓会等の多くの人々が別れを惜しむ姿に三代目鳥羽丸が本学関係者から本当に慕われていたことが分かりました。浮遊物という無機物ではなく、練習船はまるで生命体のような存在であり、お世話になった皆を包み込んでくれたように思いました。

高専フェス2024が6月23日東京、7月14日大阪の2箇所で開催され、受験生を対象として受験を検討している方々への高専各校における具体的な受験案内を行いました。開催地の東京、大阪において本校に興味を持ってくれている方々が比較的多かったので、嬉しかったです。これからも同様の催しに力を入れていき、本校の魅力を一人でも多くの受験生に伝えたいです。





9月20日、第53回商船学科卒業式、第17回専攻科の修了式を行いました。私は体調不良で欠席し、江崎副校長に代理で証書授与を行ってもらいました。大切な卒業式で卒業証書を私から手渡すことができずに、卒業生の皆様、ごめんなさい。

10月8日、この日は鳥羽の日です。本校練習船の四代目鳥羽丸の命名・進水式がこの日に行われました。命名・進水式でくす玉が割れ、花火が打ち上げられ、ゆっくりと四代目鳥羽丸が動き出しました。進水式後は艀装工事が行われ、来年の3月に引渡式が予定されています。本船が建造されるまでに、長い月日と本当に多くの方々の力がありました。感謝の気持ちと共に、それらに応えるためにも四代目鳥羽丸が活躍できるようにできる限り努めていきたいと思います。

【校長 古山 雄一 記】

#### 鳥羽商船高専同窓会だより

朝夕の寒さも急に深まりました。秋らしい気候の期間が年々短くなっているように思います。皆様も体調の管理にご自愛ください。

令和6年9月20日（金）、商船学科（N18名、E13名）卒業式と専攻科（海事システム学3名）修了式が母校で挙行されました。

進路は進学5名、陸上職2名、海上職27名でした。

近年は教官方の熱意にこたえて学生たちも海技試験を積極的に受験し、好成績を収め商船学科の面目躍如です。同窓会長挨拶では日本にとどまらず、世界へ羽ばたく勇氣と気持ちをもって社会へ大きく旅立ってくださいとのはなむけの言葉を手向けました。



『ごきげんよう！』



資格取得奨励授与式にて

令和6年10月8日（金）、鳥羽の日に4代目鳥羽丸 命名・進水式が岡山県玉野市の三菱マリンタイムシステムズ㈱で執り行われました。商船5校の新練習船建造と母校係留棧橋の新替えに多大のご尽力をいただいた自民党文部科学部会の赤池誠章（まさあき）参議院議員と地元三重4区選出の鈴木英敬衆議院議員は国会開催中のため、残念ながら欠席しましたが祝電をいただきました。

同窓会から菅沼会長はじめ、4名が招待され文科省、高専機構、全船協会他関係者の皆様とともにお祝いいたしました。

進水式は船台から滑り降りる式を想像していましたが既に岸壁に係留されていました。式は船名が隠された紅白の幕を上げると同時に鳥羽丸の文字が現れ、次に船体に吊られたシャンパンの瓶を、母校商船学科5年のNコースとEコースの女子2人がシャンパンに繋がる紐を斧で切り、瓶が割れると同時に舳先のくす玉が開き花火が上がり、係留策が放たれ離岸されました。

母校商船学科5年生全員が授業の一環でこの記念すべき進水式に参列しました。彼らは来春の竣工後の鳥羽丸実習はできずに9月の卒業まで学外実習なので、この進水式の思い出は一生残ると思います。新鳥羽丸は旧鳥羽丸より相当大きく感じました。鳥羽をJRや近鉄で訪れる人たちは車窓から見える鳥羽丸の存在感に驚きそうです。来年春の竣工式でのお披露目が楽しみです。

【同窓会事務局長 江崎隆夫】



## 鳥羽商船同窓会

### ホームページのご案内

母校の活躍や同窓生のクラス会での様子、同窓会報のバックナンバーなどが紹介されています

是非お立ち寄りください

鳥羽商船同窓会ホームページはこちらです ↓

<http://tobacmtdousoukai.sakura.ne.jp/>



同窓会 HP QRコード

# 広島商船高等専門学校

## ○ 年金セミナー開催

7月8日（月）に流通情報工学科5年生を対象に「年金講座」が開催されました。日本年金機構、三原年金事務所の田曾課長・小川係員によって、スライドと資料を用いて詳しく年金についての説明を受けました。学生たちは将来の保険として年金制度の大切さを学びました。



## ○ 第59回全国商船高等専門学校漕艇大会報告

7月15日（月・祝）に富山高等専門学校臨海実習場（主管：富山高専）にて開催された、第59回全国商船高等専門学校漕艇大会に、本校漕艇部が出場しました。



全国5商船高専からAチーム・Bチームが参加し、熱戦の結果、本校漕艇部AチームおよびBチームのW優勝を果たしました。

## ○ 外部講師による講義を実施しました

学生生活における事件・事故を未然に防止することを目的として、特別活動の時間を利用して、竹原警察署大崎上島分庁舎から外部講師をお招きし、以下のとおり講義を実施しました。

学生は講師の話に熱心に耳を傾け、自分の身近でこうした事態が発生した場合の対処法など、講師に積極的に質問していました。

### ① 7月16日（火）

（対象：1年生 135名）

講義内容「SNS上のトラブル（いじめ・ハラスメント・盗撮・消費者トラブル等）について」

### ② 7月23日（火）

（対象：3年生 132名）

講義内容「交通安全について」

### ③ 8月6日（火）

（対象：2年生 128名）

講義内容「薬物について」



## ○ 夏季オープンスクールを開催しました

8月3日（土）・4日（日）令和6年度夏季オープンスクールを開催いたしました。

参加者には、始めに視聴覚教室で校長・副校長・学生会による全体説明を行いました。



学生会による説明では、行事などの学校生活、クラブ活動、学生会活動が紹介されました。

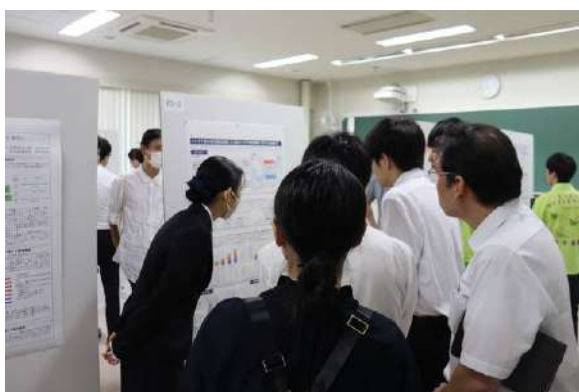
その後は希望学科に分かれての体験授業、希望者を対象にした個別相談、学生寮見学および練習船見学を実施しました。

開催にあたっては、学生会役員を始め、多くの本学生の協力のもと、本校の普段の雰囲気がより伝えることができたのではないかと思います。

今回のオープンスクールでは 178 組のお申し込みをいただきました。

### ○ 日本高専学会で流通情報工学科の学生 2 名が研究発表を行いました

9月4日（水）～9月6日（金）の3日間、函館工業高等専門学校にて、日本高専学会 第30回年会講演会が行われました。



今回の高専学会のテーマは「地域と世界をつなぐ高専」であり、9月5日（木）に本校の中村学生と花岡学生の2名が以下のタイトルで現地発表しました。

花岡 彩(小川研究室、流通情報工学科5年):  
コンテナ船の運河通航回避による空コンテナ回送問題に関する基礎研究

中村 洸太(金子研究室、流通情報工学科5年):  
法律文書のデジタル化に関する諸問題について

花岡学生は、ガザ地区で起きている戦争によりスエズ運河のコンテナ船の通航が回避されていることを背景に、空コンテナの回送と保管について分析を行いました。

数理モデルを構築し、様々な貿易シナリオにおいてシミュレーションを行い、戦争の影響が海上輸送コンテナへどのように影響しているか発表しました。

中村学生は、法律文書のうち遺言書を取り上げ、今後導入が検討されているいわゆるデジタル遺言書（デジタル技術・機器を用いて作成する遺言書）の法的な課題について分析し、既存の遺言制度も維持しつつ、デジタル遺言書を併用することの可能性について発表しました。

### ○ 卒業証書・修了証書授与式を挙行

9月23日（月）、商船学科航海コース23名、機関コース19名、専攻科海事システム工学専攻3名への授与が行われ、在校生からは「私たちが先輩方の後につき、後輩の手本となれるよう努めてまいります」との送辞が、卒業生からは「どうか卒業するまでの残りの学校生活を、悔いのないよう楽しんでください。そして、仲間を大切にしてください。」との答辞がありました。







式の最後には乗船服に身を包んだ卒業生が登壇礼（伝統のお別れの挨拶。「ごきげんよう」と叫んだあと帽子を投げ上げる。）を実施し、来賓や保護者に見送られ、学舎を巣立っていきました。

### ○ 学校公式Instagram開設

本校公式Instagramを開設いたしました。学校行事や部活動、実習の様子などを発信いたします。

下記QRコードからアクセスできます。



### ○ 尾道体験航海・船上教室

9月28日（土）に尾道海の日協会（中国運輸局尾道海事事務所）主催「海の月間」行事の一環として、練習船広島丸による尾道体験航海・船上教室を実施しました。

小学生26名、中学生7名と保護者等24名が参加しました。



尾道港～尾道水道～向島一周～尾道港までの航海を楽しみながら、救命胴衣着用訓練や操舵・ロープワーク体験などを行いました。

参加者からは、「大きな船をそうじゅうするのが楽しかった。」「知らないロープの名前やゴムボートなど、説明がすごくわかりやすくおもしろかったです。」といった感想がありました。

### ○ 男子バレー部が尾三カップで2位入賞

9月8日（日）、如水館高校にて開催された「令和6年度尾三地区高等学校バレーボール大会（尾三カップ）」において、本校バレーボール部（男子）が2位入賞しました。日頃の練習の



成果が実りました。これからも、怪我等に気を付けて練習に励みます。

## ○ 薬物乱用防止キャンペーン「ダメ。ゼッタイ」普及啓発について

10月17日（木）に、大崎上島ライオンズクラブ・大崎上島町青少年健全育成協議会および本校学生会によって、薬物乱用防止啓発運動を行いました。



## ○ 恵美須神社秋季大祭の櫓伝馬に参加

10月6日（日）に大崎上島町沖浦地区で行われた恵美須神社秋季大祭の櫓伝馬に、本校の学生20名が参加しました。

「櫓伝馬は片舷7人ずつ14人の漕手により、船尾部の太鼓に合わせて櫓を合わせ、操船する手漕ぎの和船」のことです。

地域の大祭に本校学生が参加し、櫓伝馬の櫓子等の一役を担う活動を通じて、学生の地域の伝統行事に対する理解・地域住民との交流につながることができました。



## ○ 令和6年度前期功労賞受賞表彰式

課外活動等で顕著な成績を修め、他の学生の模範となった団体および学生を対象として、令和6年度前期功労賞受賞表彰式を10月25日（金）に行いました。

令和6年度前期の功労賞対象者は以下のとおりです。

| 団体名        | 大会名                        |
|------------|----------------------------|
| 剣道部 団体（男子） | 第74回広島県高等学校総合体育大会（広島県） 広島県 |
| 演習部        | 第59回全国高等学校専門学科大会 WJHS      |
| 作詩部 団体（女子） | 第77回広島県高等学校作詩部大会（広島県） 優勝   |

| 学科      | 学年 | 氏名     | クラブ等    |
|---------|----|--------|---------|
| 国際学科    | 3  | 高木 士太郎 | 剣道部     |
| 経済情報工学科 | 5  | 松本 菜々子 | 剣道部     |
| 情報学科    | 4  | 松川 雅希  | ソフトウェア部 |
| 国際情報工学科 | 3  | 伊藤 宗晴  | ソフトウェア部 |
| 化学情報工学科 | 4  | 高橋 智也  | 卓球部     |
| 経済情報工学科 | 5  | 秋田 祥寛  | 卓球部     |
| 国際情報工学科 | 5  | 西村 雅夢  | 卓球部     |
| 情報学科    | 3  | 田中 悠也  | 卓球部     |
| 国際学科    | 1  | 山口 瑞斗  | 卓球部     |
| 国際学科    | 2  | 秋田 祥寛  | 卓球部     |
| 化学情報工学科 | 1  | 吉村 上彩奈 | 卓球部     |



## ○ 第39回瀬戸内商船高等専門学校漕艇大会

11月4日（月）に、第39回瀬戸内商船高等専門学校漕艇大会を開催しました。

広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校、弓削商船高等専門学校の3校の漕艇部が本



校棧橋にて覇を競いました。

秋晴れの中熱戦が繰り広げられ、本校の漕艇部が優勝を勝ち取りました。



【商船学科 金川 静子 記】

#### ★ 校友会会員の方へ

来年度より、過去3年案内に返信のない方には、郵送を廃止します。

ホームページに掲載はしていますのでご覧ください。

広島商船高等専門学校 校友会  
月水金 9:00~15:00  
TEL 0846-65-3899  
Mail : koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

## 校 友 会

### 【合祀式報告】

#### 10月19日(土)、合祀式を執り行いました

生憎雨のため、慰霊碑前での慰霊祭ではありませんでしたが、遺族、校友、先生、学生、55名参列の下、昨年度1年間に亡くなられた方40名の合同慰霊祭を執り行いました。





# 大島商船高等専門学校

令和6年7月から令和6年10月にかけて行われた主な式典，教育活動，地域連携活動などを中心に紹介します。

## 1. 式典・催事

### ○ 令和6年度商船学科卒業証書・専攻科修了証書授与式の挙行

令和6年9月20日（金），本校は，令和6年度卒業証書・専攻科修了証書授与式を挙行しました。今年度の卒業生・修了生は，本科商船学科35名（航海コース20名，機関コース15名），専攻科海洋交通システム学専攻2名でした。

藤本隆士校長は，式辞で「新大島丸が新しい航跡を描き始めているように，皆さんが描く将来の航海計画も無限の可能性を秘めています。一人ひとりがそれぞれのナビゲーションプランを立て，慌てず，焦らず，侮らずという安全航海の基本を忘れず，将来の前途洋々たる航海の安全なる成就を期待します。」と祝福・激励しました。

式終了後，卒業生は，帆船の出航時に行われる儀式である登檣礼（とうしょうれい）や登舷礼（とうげんれい）にならって「ごきげんよう」と3回叫び，帽子を高く投げ上げて，将来への活躍を誓いました。

### ○ 令和6年度専攻科入学式の挙行

令和6年10月1日（火），本校は，令和6年度専攻科海洋交通システム学専攻の入学式を挙行しました。

式辞で藤本校長から，「これからの海運界では，皆さんが学んできた商船学の知識に加え，海運業界のデジタル化に対応できる高度な工学的センスが必要不可欠になります。専攻科において，ぜひともこの工学的センスを身に付けてください。」と激励の言葉がありました。

続いて専攻科新入生が，「将来有為な海事技術者となるため，学則を守り心身を鍛え学業

に励むことを誓います。」と宣誓しました。

## 2. 教育活動

### ○ 専攻科生を対象とした知的財産セミナーの開催

令和6年7月22日（月），本校専攻科生を対象とした知的財産セミナーを開催しました。高専機構では日本弁理士会との協定に基づき，弁理士による学生向け知的財産セミナーが行われています。今回，本校では，木村特許商標事務所の弁理士に来校いただき，特許等に関する基本的な事項を講義いただきました。

本校専攻科生24名が受講し，どんな発明が特許になるのか，特許取得の流れなどを実例を交えながら学びました。

### ○ 海洋体験実習の実施

地域と連携した特色ある授業展開の一環として，令和6年8月7日（水），3年生の保健体育授業「海洋体験実習」を3年ぶりに実施しました。新型コロナウイルス対応や台風等の天候不良のため実施を見送っていましたが，今年は天候にも恵まれ無事実施することができました。



海洋体験実習の実施

活動内容は，周防大島町 B&G 海洋センターに「カヌー体験」，柳井消防署水難救助隊に「水難救助体験（着衣泳・救助法）」を指導し

ていただきました。そして、本校の水上オートバイで「海洋レジャー体験(バナナボート)」を実施しました。水泳の授業を実施していない学生にとっては、いきなり海での実習となりましたが、とても充実した海洋体験実習となりました。

### ○「KOSEN Global Camp in 周防大島」の開催

本校において、令和6年9月8日(日)～14日(土)(計7日間)の日程で、「KOSEN Global Camp in 周防大島」を開催しました。本キャンプは、「離島環境におけるSDGs達成に向けた実務学習」をテーマに、シンガポール、台湾およびフィリピンの学生と日本の高専生が参加し、学生間のコミュニケーションをすべて英語で行いました。

当日は、国内外から30名の学生が参加し、外部専門家による様々な講演、国内外の教員によるグループワーク形式の実務学習のほか、カッター実習や水上オートバイ救助の海洋体験実習を行い、また、大島丸での宿泊を伴う体験航海に参加することで、相互にパートナーシップを醸成するとともに、実践的コミュニケーション能力の向上を図ることができました。

### ○山口県「起業家教育支援事業」の実施

令和6年8月26日(月)、27日(火)、28日(水)、9月12日(木)及び17日(火)の5日間、山口県『起業家教育支援事業』を本校で実施しました。株式会社ジブンノオトを起業され、文部科学省アントレプレナーシップ推進大使でもある講師と、Be & Grow代表で周防大島町教育委員会ICT支援員でもある講師をお迎えし、起業に興味を持つ1年生から5年生までの26名の学生が5日間のプログラムに参加しました。

## 3. 地域連携活動、公開講座など

### ○令和6年度周防大島町・大島商船高等専門学校連携協力推進会議の開催

令和6年8月5日(月)、周防大島町役場において、令和6年度周防大島町・大島商船

高等専門学校連携協力推進会議を開催しました。この会議は平成17年に締結した「周防大島町と大島商船高等専門学校の連携協力に関する協定」に基づくもので、令和6年度で20年目の開催となります。

議事に先立ち、藤本浄孝周防大島町長および藤本校長の挨拶があり、続いて「周防大島町の現況」および「本校の現況」について説明がありました。その後の意見交換会では、町と学校の連携の在り方について積極的に意見が述べられ、今後も地域の振興と教育研究の充実をより一層図ることができるよう、相互の連携協力関係を維持していくことを合意しました。

### ○実習船「すばる」により「海洋教育パイオニアスクールプログラム～海を知る、海を利用する」を実施

令和6年9月5日(木)、柳井市の大島小学校の6年生15名を対象に、「海洋教育パイオニアスクールプログラム～海を知る、海を利用する～」を実施しました。

大島小学校からは児童15名と保護者3名、校長先生と担任教諭、屋代島さとうみネットワーク代表が参加しました。この講座は、自分たちの学校や家のすぐ近くにある強潮流の大島瀬戸と、その近隣海域の実際の状況を、実習船「すばる」から見てもらうことを主目的とし、他にも当校の大型船の操船シミュレータ体験も行いました。

### ○令和6年度地域連携交流会総会の開催

令和6年9月18日(水)、令和6年度大島商船高等専門学校地域連携交流会総会が開催されました。総会では冒頭に地域連携交流会会長と石原良晃副校長の挨拶がありました。その後、会長が議長となり令和5年度の事業報告、決算報告、監査報告、令和6年度の事業計画(案)および予算(案)の議事について協議が行われ、滞りなく承認されました。

また、地域連携交流会会則の規則改正について、中村翼地域協力センター長より説明があり、承認されました。

#### 4. 学校PR活動、クラブ活動の表彰など

##### ○ 全国漕艇大会準優勝

令和6年7月15日（月）、富山県射水市の富山高等専門学校臨海実習場にて、第59回全国漕艇大会が開催されました。カッター乗員は艇長・艇指揮の他に12名の漕手で編成されており、本校からはA艇（うち女子学生5名）B艇（うち女子学生5名）が参加し、準優勝となりました。

##### ○ 山口県内3高専合同学校説明会の開催

令和6年7月27日（土）、岩国市民文化会館において、山口県内3高専合同学校説明会を開催しました。これは、中学生や保護者を対象とした説明会を大島商船高等専門学校・徳山工業高等専門学校・宇部工業高等専門学校の県内3高専が県内3会場で行っているもので、岩国会場は本校の主催で説明会を開催しました。当日は近隣中学校だけではなく、広島県や山口県美祢市などの中学校生徒さんにもご参加いただきました。

##### ○ 第2回オープンキャンパスの開催

令和6年8月3日（土）、本校にて第2回のオープンキャンパスを開催しました。参加者の方々は事前に申し込んだ学科や体験学習・見学に応じたグループで半日コースと1日コースに分かれ、本校学生と教員が案内しました。

山口県内や四国、九州、関西地方等の都道府県から259名（うち中学生141名）の方にご参加いただき、研究室で教員の解説を聞いたり、実際に装置を動かしてみたりと様々な体験をしていただきました。

##### ○ 高専ロボコン2024中国地区大会 Aチーム準優勝、Bチーム特別賞の受賞

令和6年9月29日（日）、岡山県津山総合体育館において、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024中国地区大会が開催されました。

本校Aチーム【カモメ漂流記】は、本校のキャラクターでもある『カモメ』をモチーフにした可愛いデザインで見事に準優勝し、

令和6年11月17日（日）に両国国技館において開催される全国大会への出場を決めました。

また、本校Bチーム【限界突破!!!】は「特別賞（デンソー賞）」を受賞しました。

##### ○ GCON カンファレンス 2024 に本校学生が参加

令和6年9月14日（土）、GCON2024（第3回高専 GIRLS SDGs×Technology Contest）のプレ大会である GCON カンファレンス 2024 が東京のテレコムセンターで行われ、本校のコンピュータ部から、情報工学科3年の学生1名と情報工学科3年の学生1名が参加しました。

参加した2名は、女性の工学技術者が男性の技術者よりも少ない現状を変えるために、本校で9名のチームをつくり、STEAM 教育と遊びを兼ね備えた性別や年齢に関係なくプレイ可能な VR システムを開発し、「十人十竹 ～あなただけの竹とんぼと一緒に工学的思考を～」という内容でポスターセッションをしました。協賛企業や高専からの参加者に対して活動報告をして、今後に向けての貴重な意見をいただきました。

##### ○ 第35回高専プロコン奈良大会で大島商船チームが課題部門において企業賞を受賞

令和6年10月19日（土）～20日（日）、なら100年会館で開催された「第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」

（高専プロコン）で、本校情報工学科2年生チームが課題部門においてピクシブ企業賞を受賞しました。

【商船学科 渡邊 武 記】

小松会だより

##### ○ 慰霊塔整備作業を実施しました



9月19日実施する慰霊祭を前に9月16日に大島・柳井支部の有志に呼びかけ、慰霊塔付近の清掃活動を実施いたしました。

今年は猛暑が続き、酷暑の中での作業でしたが、合祀されている方に思いを寄せて汗水を流しながら作業を行いました。



慰霊塔付近清掃活動の様子

### ○ 令和6年度 慰霊祭を実施しました

令和6年9月19日（木）、大島商船高等専門学校多目的メディア教室にて、慰霊祭を挙行了しました。今年度は19柱の御霊に対して、同窓生、教職員、在校生が参列して、黙とうや献花を行い死没者の冥福を祈りました。合祀者の一柱でいらっしゃる大島金鎚先生は多くのOB、OGに慕われていたことから、参加者は大島先生の思い出話に浸っていました。



同窓会長による式辞

慰霊祭では、広重同窓会長および校長代理の石原総務主事より追悼のことばを頂きました。参列者は式典の後、慰霊塔にも足を運び、手を合わせていました。



慰霊塔への参列

### ○ 令和6年度 同窓会理事会・総会を実施しました

令和6年9月19日（木）、大島商船高等専門学校多目的メディア教室にて令和6年度同窓会理事会および総会を実施しました。

今年度は役員改選により、新しく同窓会長にNN6期岩崎寛樹氏が、副会長にEE6期浦田清氏、EE7期古崎敏雄氏、NN7期埤克則氏が就任しました。



#### 岩崎新会長による挨拶

また、各支部におきましても役員の若返りが行われました。理事会では、会計報告、各支部からの活動報告などが行われたのち、今後の同窓会活動について活発な意見が交わされました。

その後の懇親会では、大晃機械工業株式会社国際研修センターに場所を移し、大いに盛り上がりました。



#### 集合写真

### ○ 第6 回 新京浜小松会ゴルフコンペを開催しました

下記日程にて、第6回 新京浜小松会ゴルフコンペを市原京急カントリークラブにて開催いたしました。

当日は、秋空のもと10名の参加者にてプレーし盛大に盛り上がりました。次回開催時も、奮ってご参加ください

日時：2024年10月30日（水）

場所：市原京急カントリークラブ



後列左側より：石橋千加志、川崎兼光、門脇和彦、大林和彦、中西安仁

前列左側より：綿森重樹、藤野昌邦、渡部龍夫、岩田耕司、岡本和彦

### ○ 周南小松会の今後の行事予定について

周南小松会では今後下記のようなイベントを予定しております。

皆様の参加をお待ちしています。

- ・令和7年2月：総会・懇親会（予定）
- ・令和7年5～6月：第13回ゴルフコンペ（予定）
- ・令和7年7～8月：ビアガーデン（予定）
- ・令和7年11～12月：第14回ゴルフコンペ（予定）

【 同窓会理事：山口伸弥 】



# 弓削商船高等専門学校

## ○ 税の教室開催

令和6年6月20日（木）、税理士の方を講師としてお招きし、1年生（125名）を対象に「税の教室」を実施しました。

学生は、税理士の方からの問いかけに、積極的に回答しながら、税について学習しました。

実施後のアンケートでは「これから節約をしたい」や「税金を払わなければ、当たり前と思っていることがなくなったり、できなくなったりすることが分かった」などのコメントがありました。



## ○ 商船学科救命講習実施

令和6年7月17日（水）商船学科1年生37名が参加し、救命講習を実施しました。

この講習はSTCW条約の批准に伴う船舶職員法に基づく講習で、海技免許取得のために必要な講習の一部であり、必ず受講しなければならぬものとなっています。

講習の中で、学生は膨張式救命筏の使用方法や、救命胴衣の着用方法、そして弓削丸からの飛込実習等を実施しました。

約2.5mの高さから飛び込む際にはさすがに緊張した様子でしたが、「万が一の緊急事態に船からの飛込みを経験していることが命を守ることにつながる」と教員から説明を受け、学生は真剣に実習に取り組んでいる様子でし

た。



## ○ 令和6年度知的財産セミナー開催

令和6年7月25日（木）、本校アセンブリホールにおいて、各学科3年生を対象とした日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナーを開催しました。

本セミナーは、国立高等専門学校機構と日本弁理士会との連携・協力に関する協定に基づき毎年実施しているもので、今年度は、日本弁理士会から壬生弁理士事務所の壬生 優子弁理士に講師として来校いただき、学生、教職員等を含め約130名が受講しました。







セミナーでは、「特許エンターテイメントセミナー概要編」と題し、どんな発明が特許になるのかなど、具体的事例を交えながら知的財産について分かりやすく講義していただきました。また途中には、特許を取ってベンチャー企業を立ち上げようと相談に訪れた主人公とその相談を受けた弁理士の「物語」を本校の学生と壬生講師が演じるなど、工夫を凝らした講義で楽しく学ぶこともできました。

### ○ 練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」実施

令和6年7月27日（土）、28日（日）の2日間、練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」を愛媛県松山市で実施しました。

873名の応募の中から抽選で選ばれた一般の参加者約250名と海洋少年団の約100名が体験航海に参加しました。



参加者は、スタンプラリーを行いながら、ブリッジで舵を取って操船したり、デッキから望遠鏡で遠くの島や船を眺めたり、制服を着て記念撮影をするなど、それぞれ思い思いに約1時間の船旅を楽しみました。

参加者からは「大きな船を操縦できて嬉しかった。」「エンジンがとても大きくてびっくりした。」「船の中をたくさん探検できてよかった。」「普段みることのできない場所を見ることができてよかった。学生の方にも優しく接していただき、楽しく参加できた。」等の感想が寄せられ好評でした。また、「弓削丸」による体験航海を通じて海事思想の普及を図ることで地域に対しても大いに貢献できました。

### ○ 令和6年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式

令和6年9月21日（土）、令和6年度弓削商船高等専門学校商船学科卒業式・専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式を挙行し、卒業生36名及び修了生2名に卒業証書・修了証書が授与されました。

今年度も、多くの来賓、保護者の方々のご臨席を賜り、盛大に卒業式を挙行することができました。

内田校長から「恵まれた環境の中で多くの友人・地域や産業界の方々と接し、学び、課外活動に精を出し、多くの発表会に参加し、自己向上を図ったことについて、各々が誰よりも高く誇りを持ち、その旨を積極的にアピールしてください」と式辞が述べられました。また、来賓の上村俊之上島町長、広重康成全日本船舶職員協会会長から祝辞をいただ

き、卒業生・修了生は引き締まった表情で聞き入っていました。

卒業生総代の堀切匠さんから「私達は明日から社会という未知の大海原へと出航します。時には嵐に出会い、自分の引いたコースラインから外れることもあるかもしれませんが。しかし、そんな時こそ、ここにいる仲間と過ごしてきた5年半を思い出し、あと一歩踏ん張ってコースライン上に軌道修正し、目的地まで航海を続けていきたいと強く思います」と力強い答辞がありました。

最後に、卒業生一同が登壇礼（とうしょうれい）を実施し、「ごきげんよう！」の掛け声とともに、全員の制帽が美しく宙を舞いました。



## ○ 尾道市内の小学生を対象とした「海事教室」実施

令和6年9月11日（水）、12日（木）に、尾道市西御所岸壁において、「尾道 COOL CHOICE プロジェクト」推進事業の一環として「海事教室」を開催しました。

本事業は、令和2年度からスタートして本

年で5年目となり、令和6年3月に就航した新弓削丸による初めての開催となります。

本校から商船学科および電子機械工学科の教職員等が講師として、尾道市内の計3校96名の小学生に対して、「海洋プラスチック汚染問題等の環境課題や、私たちの豊かな生活を支える海運について学び、海と船への関心と理解を深めること」を目的として、「環境学習」、「ものづくり体験」、「ロープワーク」および「弓削丸体験航海」を実施しました。

「環境学習」では、マイクロプラスチックによる環境問題やブルーカーボンについて取り上げ、海洋環境を守る大切さなどを学びました。また、弓削丸に装備しているマイクロプラスチック回収装置で採取したマイクロプラスチックを観察し、海洋環境について身近に考えてもらう機会となりました。

「ものづくり体験」では、児童が製品の元になるボルトやナット、歯車の仕組みなど実際の部品に触れながら学習しました。日本のものづくりを支える技術者について理解を深め、児童たちは興味津々の様子でした。

「ロープワーク」では、基本的な結び方や高度で強固な結び方を練習しました。身近な結び方として靴紐等で利用する蝶々結びの構造や、間違いやすい縦結びとの違いについて学び、「おうちに帰って両親に自慢するんだ」と喜んでいました。

「弓削丸体験航海」では、尾道水道を含む約1時間の航海を実施しました。児童たちは新しい船内を自由に散策し、操舵体験や双眼鏡を使って海からの景色を見学するなど、「普段知ることができないことを学んだ」と喜んでいました。







## ○ 全国高専ロボコン 2024 四国地区大会に参加

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2024 四国地区大会」（以下、ロボコン四国地区大会）が9月29日（日）に香川高等専門学校高松キャンパス第一体育館にて開催されました。

今年度の課題は、「ロボたちの帰還」で、ロボット1がロボット2を指定エリアに投げ、ロボット2が指定エリアからボールとボックスをロボット1に渡す、というものでした。

本校からはAチームおよびBチームの2チームが参加しました。

両チームとも予選リーグ敗退でしたが、Aチームは、皆でロボットを動かすことを目標に、2年生チームが5年生の指導を受けながらロボット製作に励んだことが評価され、田中貴金属グループ様から特別賞を、Bチームは、LEDで表現したロボットの表情が見ている人を楽しませてくれたことが評価され、ローム株式会社様から特別賞を授与されました。

迫力のあるロボットの動作に歓声があがり、また、本番のプレッシャーと戦いながら

ロボットを操縦する学生達に対し、観客から多くの声援が寄せられていました。



## ○ 令和6年度専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式

令和6年10月1日（火）令和6年度弓削商船高等専門学校専攻科（海上輸送システム工学専攻）入学式を挙行し、4名の学生が入学しました。

式では、入学生による宣誓が行われ、その後、校長から、「技術者としての自己研鑽に励み、国際感覚を養い、高い知識と優れた技能・技術を有するバランス良い実践的技術者を目指してください。修学期間の2年間はあっという間ですので、計画的かつ精力的に取り組んでください。」と式辞がありました。

専攻科入学生は慣れ親しんだ学び舎で心機一転、新たな学生生活を始めました。





### ○ 女性の心身の健康に関する講演会実施

10月3日（木）、女性の心身の健康に関する講演会「おとなになるまでに知っておきたい女性のカラダと健康のこと」をライブ配信で実施しました。1年生124名、教職員数名がアセンブリホールに於いて受講しました。

この講演会は、思春期の健康教育推進プロジェクト『かがやきスクール』2024 オンライン授業として実施されているもので、自身が望む人生設計やキャリアプランを実現するため、女性特有の病気やライフステージの変化について正しく理解してもらうことを目的としています。

講師のみやはらレディースクリニック院長、産婦人科医の宮原 陽先生が、女性のカラダとホルモン、月経のトラブルと対処法、子宮の病気、正しい避妊、女性の健康とライフイベント等について、幅広い内容をお話してくださいました。

講演後の、ピルのデメリット、安全な性交について等の質問にも、ご回答いただきました。

学生からは、「相談することが大切だと思った」、「仕事をがんばっている内に妊娠出産できる期限が過ぎてしまわないようにしたいと思った」等の感想が聞かれました。

女性の健康に関する理解を深めることで、ダイバーシティに関する意識啓発を図るための有意義な講演会となりました。



### ○ 第21回全国高等専門学校デザインコンペティション「AM デザイン部門」で最優秀賞(経済産業大臣賞)受賞

11月2日（土）～3日（日）、阿南高専において第21回全国高等専門学校デザインコンペティション「デザコン2024 in ANAN」が開催されました。本校からは、「AM デザイン部門」へ電子機械工学科5年生のチームが出場しました。

「AM デザイン部門」は、3Dプリンタを使って自由な発想と独創的なアイデアを競う部門であり、今回のテーマは”人と人が豊かにつながるものづくり”でした。

「AM デザイン部門」には全国の高専から32チームがエントリーし、予選（書類審査）を通過した本校を含む8チームが本選に出場しました。

1日目は口頭発表と質疑応答、2日目はポスターセッションにより審査が実施されました。

本校は、サイクル用のビンディングシューズの裏面にあるクリート（留め具）とクリートが接する床を保護するとともに、滑りやすさを抑え歩きやすくしたアイテム「ヒールラクテクター」を考案し、見事「最優秀賞（経済産業大臣賞）」を受賞しました。

「サイクリングしまなみ2024」で上島町を訪れたサイクリストに、「ヒールラクテクター」の履き心地などを調査し、改良を重ねたことが高く評価されました。



## ■ 弓削丸横浜港寄港一般公開

日時：令和7年1月25日(土)、26日(日)  
場所：みなとみらい内貿バース(耐震バース)  
神奈川県横浜市西区 みなとみらい1丁目1

※日程が変更になる可能性があります。  
詳細については、同窓会ホームページでご確認ください。

同窓会 HP

<https://yuge-kosen.com/>



## ■ 同窓会事務局

電話(学校代表) 0897-77-4606  
FAX 0897-77-4692  
メール [info@yuge-kosen.com](mailto:info@yuge-kosen.com)  
同窓会事務担当 田房 友典(I-2期)

【練習船弓削丸 森瑛太郎 記】

## 弓削商船高専同窓会

### ■ 令和7年今治支部新年会開催のご案内

日時：令和7年1月25日(土) 18時30分  
場所：今治国際ホテル  
連絡先：今治支部事務局  
[imabari@yuge-kosen.com](mailto:imabari@yuge-kosen.com)

# 海 技 教 育 機 構

## ○ 乗船実習

### 【日本丸】

10月1日に高等専門学校4年生(第55期生)航海科94名が乗船し、5ヶ月にわたる実習を行っています。

年明けにはシンガポールへの遠洋航海も予定しており、2月に下船する頃には逞しくなった姿を見せてくれることでしょう。



小艇実習(日本丸)

### 【銀河丸】

7月1日に高等専門学校6年生(第53期生)航海科59名及び機関科77名が乗船し、シンガポールへの遠洋航海を含む3ヶ月の長期実習を行いました。

外地への遠洋航海は、一時コロナ禍で中止されていましたが、昨年に続き無事に航海を成就することができました。英語での通信やシンガポール港湾運用管理センターの見学など、内地航海ではできない多くの経験を積むことができました。9月に帰国し下船する頃には、大きく成長した姿を見せてくれました。

10月1日に高等専門学校4年生(第55期生)機関科94名が乗船し、日本丸の航海科と同様に5ヶ月間の長期実習を行っています。

初めての長期実習ですが、多くの学びがあることを期待しています。

### 天測実習(銀河丸)

### 模擬操練(銀河丸)

### 【青雲丸】

7月1日に高等専門学校6年生(第53期生)航海科36名が乗船し、3ヶ月の長期実習を行



いました。

実習中は、室蘭、函館および小樽と北海道の三つの港を訪れ、酷暑の本州を離れた涼しい環境で、有意義な実習ができたようです。

### 航海当直(青雲丸)

## ○ 令和7年1月から3月までの乗船実習の



予定は次のとおりです。



## < 日本丸 >

- ・高等専門学校（航海）4年（2024/10/1 乗船）  
1/6 神戸発、1/19～1/23 シンガポール、  
2/8 東京着、2/10 下船
- ・高等専門学校（航海・機関）3年  
3/1 乗船、3/4 東京発、3/8～3/12 横浜、  
3/18～3/22 大阪、3/28 神戸着、3/31 下船

## < 銀河丸 >

- ・高等専門学校（機関）4年（2024/10/1 乗船）  
1/10 東京発、1/15～1/20 神戸、  
1/27～1/31 広島、2/8 神戸着、2/10 下船
- ・高等専門学校（航海・機関）3年  
3/1 乗船、3/3 神戸発、3/8～3/12 大阪、3/15  
～3/18 名古屋、3/28 東京着、3/31 下船

## ○ 海事広報

WEB を活用して実施できる広報活動について、現在は、X（旧ツイッター）、フェイスブックなどで積極的に情報発信を行っております。是非ご覧ください。

海技教育機構公式 Facebook



<https://www.facebook.com/jmets.ac.jp>

海技教育機構公式 X（旧 Twitter）



<https://twitter.com/jmetsacjp>

## 【海技教育機構オリジナルカレンダー2025】

海技教育機構オリジナルカレンダー2025 の販売を行っています。これまでのカレンダーの掲載写真は JMETS 職員や学生・生徒、実習生等から募集していましたが、2025 年版は一般の方からも写真を募集したところ、全国から大変多くの応募をいただきました。その結果、日頃から JMETS 練習船を応援してくださっている方々から届いた、様々な練習船の写真で構成されたカレンダーになりました。

価 格：1部 900 円（税込、送料別）

サ イ ズ：[カラーB4（見開き B3）版]

中綴じタイプ

製作・販売：株式会社 交文社

## 【JMETS カレンダー＆練習船カレーセット（120 セット限定販売）】

カレンダー＋カレー＋送料＝2,200 円（税込）

### ご注文・お問合せ先：

Email：info@kobunsha-print.com

TEL：03-3267-1225 FAX：03-3267-3120

HP：<https://www.kobunsha-print.com/news/608/>





賛助会員制度のご案内

<https://www.jmets.ac.jp/donation/o4qt2d00000002ey.html>



賛助会員 WEB お申込みフォーム



## ○ 賛助会員制度のご案内

持続的なご支援を賜るために賛助会員制度を運用しております。

個人賛助会員 1口 5千円

団体賛助会員 1口 5万円

※ 海技教育機構賛助会費は、一般寄附金として特定公益増進法人への寄附にあたり、所得税・法人税の優遇措置の対象となります。

賛助会員様には JMETS が実施する行事の情報提供や、JMETS オリジナルグッズ送付などの特典をご用意しております。

画像は新規ご入会の会員様へのプレゼントセットです。（トートバッグは4種類の中からお選びいただけます。）ご継続いただく会員様へは毎年新たなプレゼントグッズをご用意しております。

WEB 上のお申込みフォームから、直接お申込みいただくことができます。



JMETS オリジナルグッズ

今後とも JMETS へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

【企画調整部企画課 総括 松島 功記】

JMETS の活動内容にご賛同いただき、賛助会員にご入会くださいますようお願い申し上げます。

## 本部・支部だより

- |  |  |
|--|--|
| 2024/08/15 戦没船員献花式「戦没船員の碑」<br>(広重・徳嶋)                            | 2024/10/19 全船協第2回理事会 万世橋区<br>民館にて  |
| 2024/09/20 大島商船高専卒業式 (広重)  | 2024/10/31 海技教育財団理事会 海運ビルに<br>て (広重)                                     |
| 2024/10/02 国土交通省海事局長表敬訪問<br>(広重・徳嶋・飯島)                           | 2024/11/12 大分県立海洋科学高等学校・肥後<br>明教頭、大分県教育庁教育人事課・<br>中川忠志人事企画監 来会           |
| 2024/10/02 参議院議員 赤池まさあき 国政報<br>告会が海運ビル3階にて開催され<br>ました (広重・徳嶋・飯島) | 2024/12/03 海技教育機構 練習船「日本丸」<br>小屋野 晶船長・東福 守機関長<br>遠洋航海出航挨拶に来会             |
| 2024/10/02 参議院議員 中西祐介君を励ます<br>会 (広重)                             | 2024/12/09 帆船日本丸記念財団村田 信常務<br>理事来会                                       |
| 2024/10/08 「鳥羽丸」命名・進水式 玉野三菱<br>にて (広重・酒迎)                        | 2024/12/10 練習船「銀河丸」見学会 (広重・<br>徳嶋)                                       |
| 2024/10/11 写真展「波濤を越えて」オープニ<br>ングセレモニーに参列<br>(徳嶋・飯島)              | 2024/12/10 全日本海員組合本部改修工事竣工<br>セレモニー (広重・徳嶋)                              |
| 2024/10/15 海技教育財団奨学生選考委員会<br>(飯島)                                | 2024/12/12 2024年度5商船系高等専門学校<br>商船学科長との懇談会・懇親会<br>(広重・中山・徳嶋・酒迎・清崎・<br>飯島) |
| 2024/10/17 文部科学省高等教育局専門教育課<br>梅原弘史課長訪問 (広重・徳嶋・<br>飯島)            |  |
| 2024/10/18 5校同窓会長懇談会・懇親会   |  |



**BOLTECH Co., Ltd.**

電気・機械・冷熱のフィールドエンジニア

**社会の重要インフラや物流事業をサポートし  
持続可能な社会創りに貢献する**

|   |   |
|---|---|
| 本社  | 神奈川県横浜市西区岡野二丁目8番13号<br>TEL 045-290-6085   |
| 横浜事業所   | 神奈川県横浜市神奈川区守屋町一丁目2番2号<br>TEL:045-461-6971 |
| 神戸事業所   | 兵庫県神戸市兵庫区西出町一丁目2番3号<br>TEL:078-651-6031   |
| <a href="https://www.boltech.co.jp/">https://www.boltech.co.jp/</a> |   |



## 賛助会員名簿

2024年12月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。（一社）全日本船舶職員協会

|                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 北斗会事務局             | 日本ガスライン株式会社      |
| 大島商船高専同窓会          | 名阪船舶株式会社         |
| 鳥羽商船同窓会            | 戸田汽船株式会社         |
| 広島商船校友会            | 株式会社商船三井内航       |
| 弓削商船高専同窓会          | 菅原汽船株式会社         |
| 株式会社コトラスシステム       | 神戸マリーン工業株式会社     |
| 北星海運株式会社           | 株式会社マリントランスシステム  |
| 山友汽船株式会社           | 正栄汽船株式会社         |
| 株式会社ビーマント・インタープライズ | かもめプロペラ株式会社      |
| 栗林商船株式会社           | 東興海運株式会社         |
| 名古屋メッキ工業株式会社       | 鹿児島船舶株式会社        |
| 八馬汽船株式会社           | 摂予汽船株式会社         |
| 大四マリン株式会社          | 株式会社NMDグループ      |
| NSユナイテッド内航海運株式会社   | 兵機海運株式会社         |
| 太洋産業貿易株式会社         | 協同商船株式会社         |
| 旭運輸株式会社            | 日本油化工業株式会社       |
| 上野トランステック株式会社      | 株式会社アイエスシー       |
| 日本栄船株式会社           | 株式会社ボルテック        |
| 株式会社ハマテクノサービス      | 有限会社システムエンジニアリング |
| 宮城マリンサービス株式会社      | 玉井商船株式会社         |

## 2024 年度会費納入者芳名帳

2024 年 8 月 1 日～2024 年 12/月 16 日現在

|            |        |             |        |             |
|------------|--------|-------------|--------|-------------|
| <b>8 月</b> | 安部 眞一  | 國武 千歳       | 藤井 飛雄馬 | 竹田 英樹       |
| <b>個人</b>  | 伊庭野 紀弘 | 阿久根 浩人      | 中島 敏行  | 亀山 真吾       |
| 柏木 昭彦      | 小山 靖   | 西村 誠        | 村田 一明  | 神田 修二       |
| <b>9 月</b> | 吉村 重登  | 二川 英樹       | 齋藤 彰   | 古川 洋        |
| <b>個人</b>  | 渡辺 隆彦  | 加藤 明洋       | 寒河江 芳美 | 小林 大        |
| 佐野 博       | 橋之口 勉  | 木元 孝憲       | 武田 雄三  | 堺屋 純        |
| 高野 功       | 峯 浩    | 吉澤 勇        | 秦 眞三   | 千道 英雄       |
| 松見 準       | 濱尾 弘宣  | 新田 泰弘       | 桑田 大輝  | 井波 稔        |
| 竹内 航平      | 西谷 直記  | 野崎 正則       | 木下 博   | 門脇 元        |
| 中川 敏昭      | 立野 征生  | 菅沼 延之       | 高橋 美和  | 和田 一輝       |
| 山田 昌利      | 西谷 勇二  | 玉川 宏        | 浅井 椋   | 木場 恭平       |
| 中居 豊平      | 徳森 生喜  | 文谷 嘉宏       | 村井 隼人  | 須田 浩明       |
| 勝木 輝明      | 澤田 敬生  | 松本 大典       | 風折 正美  | 小谷 卓哉       |
| 森 健介       | 岩本 竜輔  | 原田 圭司       | 伴 良造   | 師富 潤        |
| 中川 佳彦      | 谷中 和泉  | 荒木 新一       | 富永 信行  | 直原 正汰       |
| 武村 泰宏      | 高村 颯介  | 西 泰浩        | 小林 悠   | 濱本 奈        |
| 渡部 英利      | 谷本 優太  | 吉本 茂正       | 時松 勇貴  | 澤井 建毅       |
| 橋本 禎成      | 片山 隼作  | 堀田 規安       | 井上 健二  | 前田 裕        |
| 田島 孝一      | 神戸 金太郎 | 野村 浩久       | 小田部 誠一 | 西宮 昭二       |
| 中山 隆志      | 岩野 成   | 新田 浩貴       | 内藤 真世  | 上村 尚希       |
| 西山 豊久      | 鈴木 晴敏  | 土屋 秀生       | 江種 大宗  | 大下 博弥       |
| 浅沼 裕       | 舘 満治   | 栗阪 肇        | 森田 任紀  | 井戸坂 篤       |
| 滝口 智       | 日朝 俊哉  | 森下 昂        | 内海 真吾  | 町 裕次        |
| 安藤 来夢      | 山田 青五  | 桑田 槇之介      | 坂井 康寛  | 菅原 央貴       |
| 吉原 蒼一郎     | 谷口 誠   | <b>10 月</b> | 足立 雅俊  | <b>11 月</b> |
| 山田 康喜      | 畑内 康孝  | <b>個人</b>   | 武田 康裕  | <b>個人</b>   |
| 田中 新人      | 廣瀬 潤一  | 田中 英治       | 柴田 周平  | 土肥 一輝       |
| 丸山 大輔      | 須佐美 智嗣 | 沖本 和也       | 楠本 春太郎 | 藤井 一洋       |
| 秋元 圭       | 芦刈 天悠  | 松本 弘明       | 末岡 民行  | 宇高 保        |

|         |        |           |        |        |
|---------|--------|-----------|--------|--------|
| 松井 拓海   | 楠本 竜也  | 共栄タンカー（株） | 大下 尚   | 繁岡 潤人  |
| 長谷川 徹   | 鬼頭 和江  | 佐藤 好司     | 佐藤 祥二  | 溝口 雄基  |
| 杉本 真吾   | 原田 信夫  | 外谷 正彦     | 中西 智章  | 村上 凜汰朗 |
| 梅本 涼矢   | 白石 真純  | 石田健一郎     | 森 団平   | 原田 亮太郎 |
| 有本 香織   | 千葉 優太  | 浦田 建      | 岩本 真一  | 橋本 康平  |
| 太田 知孝   | 金子 海里  | 中野 寛士     | 富田 佳彦  | 濱田 彪我  |
| 松本 佳岳   | 末永 智之  | 岩城 音芽     | 川上 哲治  | 三輪 恭也  |
| 林 和佳奈   | 田中 拓海  | 日本郵船（株）   | 蔵田 恒志郎 | 山本 悠陽  |
| 渡邊 歩夢   | 野田 恭平  | 大木 昭和     | 小西 智子  | 高藤 丈太郎 |
| 川崎汽船（株） | 浪切 聡史  | 長井 一剛     | 富士 竜太  | 終身会員   |
| 中村 敦也   | 中野 陽介  | 安井 修三     | 高橋 英次  | 佐尾 治作  |
| 阿部 昭敬   | 宮田 涼一  | 相原 隆志     | 菅 篤志   | 中瀬 和典  |
| 足立 吉久   | 吉永 友安  | 一原 勝彦     | 應治 俊幸  | 木下 健   |
| 廣瀬 憲博   | 北井 君弥  | 芥川 俊久     | 須磨 秀文  | 大原 智喜  |
| 岡本 龍太   | 藤島 卓弥  | 萩原 智昭     | 石井 秀典  | 福田 祥司  |
| 西川 信紀   | 續石 波輝  | 藤野 晴久     | 笠松 法昭  | 岩本 利雄  |
| 藤澤 直樹   | 米重 絢人  | 杉山 栄作     | 古川 大樹  |        |
| 村松 賢一   | 小林 勇海  | 池田 和人     | 成田龍之介  |        |
| 富田 稔    | 田中 巖之介 | 麻生 恵毅     | 久保 潤一  |        |
| 大澤 博次   | 山崎 剛志  | 徳田 健二     | 岡田 悠紀  |        |
| 川本康一郎   | 1 2 月  | 鳴海 弘晃     | 神田 和也  |        |
| 小山 陽平   | 個人     | 杉山 治      | 川西 雄太  |        |
| 山下 裕規   | 田中 翔   | 中原 雅光     | 鈴木 直   |        |
| 藤坂 祐介   | 永井 達也  | 半田 洋樹     | 森下 辰郎  |        |
| 西岡 圭志   | 池原 直哉  | 出口 孝治     | 三宅 俊哉  |        |
| 加藤 健真   | 小池 信雄  | 森 光生      | 小林 佳寛  |        |
| 長沼 竜二   | 高岡 俊輔  | 熊谷 英樹     | 下田 賢斗  |        |
| 長尾 徹也   | 内野 光博  | 佐々木 努     | 山森 大幹  |        |
| 友光 雄太   | 新沼 剛   | 梶山 勝徳     | 内山 拓哉  |        |
| 山本 将吾   | 松田 孝   | 堀江 貴義     | 木村 祐太郎 |        |
| 石田 宗久   |        | 岡本 二郎     | 竹俣 多聞  |        |



## 2024 年度新入学入会者名簿

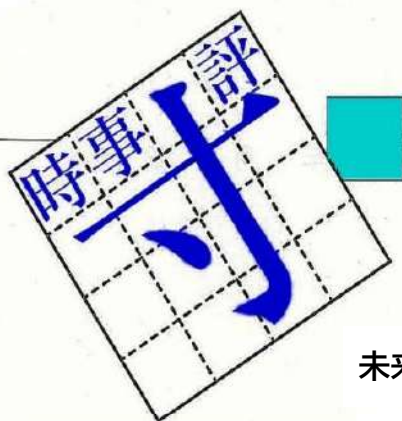
2024 年 12 月 16 日現在

|            |        |        |       |        |        |
|------------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 富山         | 古川 美羽  | 川瀬 奏汰  | 池谷 凜人 | 原田 匠   | 真田 なの芭 |
| 摺崎 央明      | 鳥羽     | 天野 侑登  | 平野 聖弥 | 木野村 直紀 | 田中 希未子 |
| 藤井 空惟      | 染川 智弘  | 広島     | 柳井 創太 | 小川 エイト | 松本 惇志  |
| 松本 真維子     | 高村 峯成  | 城石 春太郎 | 内海 颯太 | 野原 漣矢  | 脇坂 駿太  |
| 久保 さくら     | 山本 雄也  | 江口 倅平  | 市川 逞  | 石崎 由起  | 石川 将   |
| 川村 奈也      | 岩田 直竣  | 岸本 健登  | 高橋 左京 | 山口 千滉  | 山下 瑞貴  |
| 沢田 知歩      | 小島 みずほ | 名越 海志  | 中島 清花 | 古本 洋介  | 武田 空大  |
| 小西 湊       | 田中 護士  | 渡部 晴   | 江東 海舟 | 古川 幸太  | 高橋 陽菜乃 |
| 池端 幸太      | 藤井 麓太  | 渡邊 綾斗  | 古本 太志 | 鈴木 麻那  | 荒川 怜穂  |
| 山崎 凌岳      | 大川 蓮王  | 柏木 宗達  | 角森 葵一 | 半田 侑暖  | 井上 悠大  |
| 安蒜 そら      | 小泉 智哉  | 大原 暖登  | 松岡 凌久 | 坂崎 琥太郎 | 河野 哲也  |
| 岩本 麻衣亜     | 西脇 新   | 村上 敦紀  | 工藤 陽介 | 富野 陽向  | 佐藤 逸巧  |
| 尾形 侑大      | 柏端 恵太  | 飯間 智琉  | 小濱 弦暉 | 栞原 大雅  | 松岡 美湖  |
| 中家 里歩      | 前田 漣音  | 徳永 陽花  | 瀧口 琉斗 | 藤本 大雅  | 神頭 咲太郎 |
| 土屋 秋空      | 落水 翼   | 川越 伊織  | 大島    | 田邊 篤郎  | 郷頭 悠翔  |
| 綱本 光希      | 若林 鈴央  | 矢田 朱莉  | 横田 聖音 | 秋田 多瑠  | 渡辺 涼久  |
| 北村 優亜      | 三坪 漣   | 魚 静真   | 富田 成海 | 角谷 佳祐  | 渡辺 佑馬  |
| 杉浦 勇人      | 柳本 耕助  | 荒田 瞭雅  | 井上 結菜 | 牟田口 蒼太 | 山本 愛瑠斗 |
| 小田切 優来     | 松尾 奏芽  | 大平 侑青  | 児玉 舜介 | 弘中 哲郎  | 早川 大慍  |
| 黒田 晴斗      | 西村 瑛偉斗 | 和田 彩愛  | 楠田 泰士 | 弓削     | 金光 春帆  |
| 杉下 芽泉      | 服部 大翔  | 高木 望叶  | 永田 莓花 | 秋元 颯良  | 川口 姫佳  |
| 高桑 太郎      | 山田 泰地  | 大谷 さち  | 大宅 巧真 | 田岡 知紘  | 森田 夏生  |
| 服部 野乃花     | 中田 凌聖  | 木原 匠埜  | 米山 実  | 森 大雅   | 西山 珈惟  |
| 盛岡 隆人      | 松岡 琥珀  | 土井 孝太郎 | 大塚 悠登 | 岡本 拓英  | 宮本 大聖  |
| 坂本 衣緒      | 大嶽 陸太  | 織田 天斗  | 村中 大地 | 松本 壮平  | 大堂 誠哲  |
| 佐々木 いるえ    | 多比良 響一 | 日熊 航慍  | 坂田 統哉 | 牧 海杜   | 台沖 一真  |
| 山下 大岳      | 林 蒼羽   | 川上 日斗  | 坪田 望颯 | 橋本 亮佑  | 名本 大起  |
| カジック レオニッド | 田辺 優貴  | 益吉 功   | 高橋 亮  | 中埜 晴太  |        |
| 大平 連太朗     | 白瀬 和真  | 児玉 剣心  | 松原 亮真 | 山本 美結  |        |
| 北野 拓海      | 月俣 寛英  | 丸山 遥人  | 野田 佳志 | 山口 紗波  |        |
| 小林 由依      | 月俣 英真  | 松浦 爽真  | 隠田 琉聖 | 住吉 拓己  |        |

## 2024 年度新卒入会者名簿

2024 年 12 月 16 日現在

|           |           |        |           |        |
|-----------|-----------|--------|-----------|--------|
| <b>富山</b> | 原口 恭一     | 小川 海斗  | 東 晃和      | 北門 壘   |
| 服部 実儀     | 廣中 隼也     | 小川 七海  | 中村 太朗     | 杳田 虹海  |
| 小西 涼夏     | 古田 薫      | 小田 袈方  | 宮崎 聖      | 山崎 希海  |
| <b>鳥羽</b> | 道中 諒人     | 川上 真輝  | 日野 向葵     | 笹方 奏   |
| 赤井 海斗     | 薬師寺 祐花    | 熊谷 耕太郎 | 藤本 真射斗    | 川東 大助  |
| 西井 涼斗     | 山口 緋生     | 小林 大翼  | 細川 祐太郎    | 高上 日向汰 |
| 長田 駿兵     | 山根 大和     | 近藤 十希  | 宮川 拳輔     | 上杉 匠   |
| 荒木 瑞輝     | 山本 賢伸     | 佐藤 響   | <b>弓削</b> | 魚 義盛   |
| 岡本 真治     | 渡辺 凌平     | 高嶋 将臣  | 金光 学史     |        |
| 中村 小太朗    | 岡部 圭祐     | 富高 航平  | 北 龍之介     |        |
| 保坂 琉成     | 木下 一磨     | 中村 賢吾  | 三村 大我     |        |
| 西山 智陽     | 古賀 旭      | 中山 貫   | 宮森 乙綺     |        |
| 木村 亮太     | 坂本 海璃     | 野元 梨乃  | 野村 奏太     |        |
| 續石 まとい    | 櫻井 一雅     | 橋本 佳典  | 阿部 快航     |        |
| 久保 綾菜     | 佐藤 燦太     | 二岡 星光  | 岡本 忠之     |        |
| 新良 湊太     | 三藤 亮吾     | 宮本 航大  | 荒木 かなえ    |        |
| 永田 渚      | 竹中 海稀     | 宮本 匠太郎 | 栗田 将渡     |        |
| 紙屋 雄大     | 谷 瑠真      | 元吉 翔志郎 | 堀切 匠      |        |
| <b>大島</b> | 中野 大輔     | 池上 壮   | 安部 流空     |        |
| 梅田 雄介     | 中村 健介     | 池田 匠慶  | 佐藤 海      |        |
| 岡本 真央     | 長島 京介     | 伊藤 裕真  | 田頭 佳乃     |        |
| 梶山 大峻     | 弘中 光咲     | 内山 類   | 中神 なつみ    |        |
| 北川 奈音     | 前田 凜      | 梅田 遼太郎 | 長谷部 航成    |        |
| 九重路 琉喜    | 松山 琉架     | 岡 佑乃介  | 秋山 耕一     |        |
| 齋藤 華月     | 河谷 海里     | 河本 叶翔  | 片岡 平      |        |
| 塩田 隼士     | <b>広島</b> | 神田 宙輝  | 佐々木 李莉    |        |
| 摺河 稜輝     | 石田 修悠     | 佐藤 天琉  | 杉原 悠斗     |        |
| 中尾 歩拓     | 井上 颯太     | 嶋津 朋子  | 森 峻幹      |        |
| 西崎 海斗     | 大原 千都     | 長谷 望叶  | 村上 孝明     |        |
| 西村 周太     | 岡林 慧      | 西川 翔   | 坂上 凜      |        |
|           |           |        |           |        |



## 未来の船

先日海技振興連盟が主催する勉強会で「空飛ぶ船」の講義を受講しました。小型のホーバークラフトに両翼が付いておりその揚力で船体が2・3m浮き上がる仕組みです。

動力は電動です。現在シンガポール近海でテストされており航続距離は100マイル程度とのことです。

講義後一寸考えました、どう想像してもGT1万トン以上の商船には不可能ではと思いました。一方、それでは未来の商船はどんな仕組み、構造だろうか？

20年程前 NYK の玄関ロビーに未来の船の模型がありました。

温暖化対策として将来の陸・海・空の輸送は電動式を目指すことは間違いないと思われます。

しかし、ここで考える点は、先程述べましたGT何千トン以上のいわゆる商船に電力で推力を確保することは可能か？ということです。造船関係者、先生方、学生諸君はこの命題に挑戦されておられる方も多いと思います。ディーゼル電気推進システム、ハイブリットEV等も進化していることと思います。また風力を利用する鋼帆を持つ船も有ります。日本人の嫌いな原子力の研究も(ごみ処理の問題はありますが)進むでしょう。(事実大型軍艦はほとんど原子力です)

排ガス対策の電動化、他の動力源、風力利用も目指すべき事柄であり必須の案件でしょう。しかし、10万トンのバルカー、50万トンのタンカー、1万TEUのコンテナ船の推進力を得るには、現状ではまだ内燃機関に頼るしかないのでは？と、昭和の船乗りである筆者は思います。

(記:徳嶋)

### 表紙写真 セルフアンローダー石灰石専用船「下北丸」NS ユナイテッド内航海運株式会社 提供

本船は、国内初の天然ガス専焼主機関と2,847kWhのリチウムイオンバッテリーを搭載し、LNGタンクには「LNGタンク用7%ニッケル鋼板」を舶用タンクとして初めて採用。主要目 総トン数：5,154トン 載貨重量：5,646トン 主要寸法：全長93.78m×幅18.20m×深さ9.90m 航海速力：約12.3ノット

### 編集後記

米国のトランプ次期大統領が、最大7500ドル(約120万円)の電気自動車(EV)向け税制支援策の廃止を検討していると報じられている。トランプ氏の支持基盤である石油・ガス業界などが廃止を求めていることに加え、自身が掲げる減税などの政策の財源確保のため、EV支援策の廃止を検討しているという。

そのトランプ次期大統領が「掘りまくれ!」と言っている「シェールオイル」。油田よりも地下深くの頁岩(けつがん、シェール)層に含まれている原油を「シェールオイル」といい、その採掘技術が2000年代以降に発達して米国を中心にその生産量が大きく増えています。

シェールオイルの開発で米国はサウジアラビアやロシアを上回る世界第1位の原油生産国になっています。2023年の米原油生産量は日量1293万バレルと過去最高。そのうち約7割に当たる日量847万バレルがシェールオイルです(米エネルギー情報局EIA調べ)。1割に満たなかった2000年代前半から割合が急速に増えています。

トランプ次期大統領はそのシェールオイルの増産を通じたインフレ対策を訴えています。方針通りに生産が大きく増えれば原油相場には下押し圧力がかかることとなりそうですが、シェールオイルの動向に注目が集まります。

(飯島・記)

### 全船協 会報 157号 新春号

2025年1月発行

◇発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人：徳嶋 明宏  
本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室  
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: [honbu@zensenkyo.com](mailto:honbu@zensenkyo.com) URL: <https://www.zensenkyo.com>

神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内  
TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520

E-mail: [kobe@zensenkyo.com](mailto:kobe@zensenkyo.com)





Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

## 東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル  
(代 表) TEL (045) 650-3180 FAX (045) 663-4811

URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp>

E-mail: [headoffice@tokyobay-pilot.jp](mailto:headoffice@tokyobay-pilot.jp)

## 株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13  
日本橋鮎佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975

FAX (03) 3245-6980

E-mail: [cotrasystem@nifty.com](mailto:cotrasystem@nifty.com)



## 内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 末岡 民行

〒650-0034

神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階

電話 (078) 332-7191 FAX (078) 391-7157

E-MAIL [info@inlandsea-pilots.jp](mailto:info@inlandsea-pilots.jp)

## 関門水先区水先人会

会長 安藤 泰彦

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号  
電話 (093) 332-2384(代)

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の  
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

## K 2 シップマネージメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14  
パークノヴァ横浜・荻番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916

E-mail : [kani@ksh.biglobe.ne.jp](mailto:kani@ksh.biglobe.ne.jp)



## 名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

<http://www.meihansenpaku.co.jp>



Marine Trans System Co., Ltd.

## 株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号

セントラルビル2階 (fabbitt内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290



## 伊勢三河湾水先区水先人会

“安全と信頼を提供”

会長 高尾 幸徳

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号  
名港ビルディング 17階

電話 : (052) 304-8311 FAX : (052) 304-8312

## 清水水先区水先人会

会長 日比野 雅彦

副会長 鈴木 泰治

〒424-0922 静岡市清水区口の出町10番80号  
清水マリンターミナル3F

電話 (054) 352-2191

FAX (054) 351-0527

## 大阪湾水先区水先人会

会長 山田 哲也

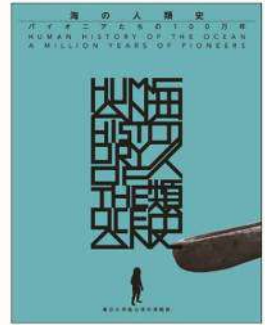
〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-5

電話 (078) 321-7221

FAX (078) 321-5307

# 海の人類史

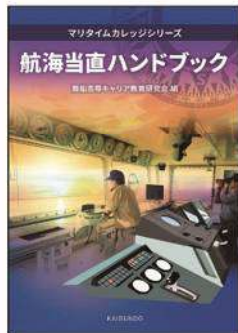
パイオニアたちの  
100万年



人類が海と向き合いはじめてから今に至る100万年の壮大な歴史を、豊富な画像で振り返る1冊。人間と海に関心がある全ての方へ。

東京大学総合研究博物館 編・発行／海文堂出版 発売  
A4判 変型 160頁 定価 5,500円(税込)

## <マリタイムカレッジシリーズ>



# 航海当直ハンドブック

航海士にとって基本の職務である「航海当直」について解説。航海当直や停泊当直時における職務内容をはじめ、出入港作業、錨泊作業、非常時の対応について、カラー写真を多用し、わかりやすくまとめた。航海士として必要不可欠な知識・技能を定着させることが可能。

商船高専キャリア教育研究会 編 A5判 192頁 定価 2,860円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4  
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

## 海文堂出版

<https://www.kaibundo.jp/>  
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

### 宿泊設備(海員会館)のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜

1階 レストラン



※写真はイメージです。

ナビオス横浜

3階 バーラウンジ



Seamen's Club



ナビオス横浜  
International Seamen's Club & Inn  
TEL: (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL: (044) 233-5896

エスカル横浜 TEL: (045) 681-2141

エスカル神戸 TEL: (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会(045)319-4506

ホームページ <https://www.jswa.or.jp>

### ■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人

## 船員保険会

会長 霜鳥 一彦

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6  
SEMPOSビル 6・7階  
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597  
URL <http://www.sempos.or.jp>

海事業界向けデータベースのネット公開サービス

「Maritime-iSAP」のご提供

詳しくはこちら <https://www.isap.co.jp/opac.html>



株式会社ISAP (アイサップ)

東京都品川区大井 1-23-4 OValビル4F

電話: 03-5709-7525 FAX: 03-5709-7527

